

# Re:前世で怪我して辞めた俺が青道で頂点を目指す話

Taiphō

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

前世で中学で全国優勝したが怪我して野球が出来なくなったオリ主が神様のミスで死に、転生して野球人生をやり直す!!

ダイヤのAct IIのアニメを見てたら書きたくなったので他のやつ進んでないのに先に書いてしまいました。

色々やりたい放題やってる自己満なので文句がある方はブラウザバックしてください。

前使ってたアレハレ無双がパスワード忘れて開けなくなったのでスマホ買い替えを気に作った新しいアカウントでリメイクします。

前と違うところはクロスオーバーがある所です！

いっその事パワプロとコラボしてたダイヤのAとMAJORをコラボさせてみよう  
と思ったので、高校の全国大会位からMAJORが混ざってくると思います！

# 目次

11話	10話	9話	8話	7話	6話	5話	4話	3話	2話	1話	プロローグと転生
92	82	70	66	58	49	34	25	13	8	4	1

19話	18話	17話	16話	15話	14話	13話	12話
168	161	151	142	133	122	112	104

## プロローグ～転生～

「お前は死んでしまった。想定外のことだな。儂も頭を悩ませておる。」

意識が戻るとなんか神々しそうなオーラを背中に出した爺さんに突然そんなことを言われた。確か、俺は車に轢かれて多分死んだハズ……

「そうそうお前は下級の神が起こしたミスで起こった車の暴走で死ん

でしまったんじゃない。……まったく面倒なこと起こしよって。」

本当に面倒くさそうだなあ。俺この後どうなるんだろ？

「お前は本来死ぬはずがなかったんじゃない。」

それが死んでしまったんじゃないよ？これは大きな問題なんじゃない。

儂らのミスとあつては他の奴らに示しがつかんからのオ。」

えーつと、その前にあんた誰？

「儂か？儂は全知全能と自他共に認められておる神、ゼウスじゃ。」

ええっー!!

あのモ○ストとかに出てくるあのゼウスか!!

てかやつぱり俺死んでたのかよー!

「?そのモ○ストとやらに出てくるゼウスで一応あつとる・・・と思う。」

ちよつと待て、俺は死んで全知全能の神がいる。これつて最近ラノベでよくあるパターンの転生できますよ〜つて奴なんじゃね?

「おお!それじゃ!それなら部下のミスのアフターケアも出来る上司としてさらに儂の株もあがるわ!という訳で転生してもらうぞ?」

なんか変なこと聞こえた気がするけど聞かなかったことにしよう。

転生先とかこつちで決めてもいいの?

「その世界にもバランスというものがあるからのオ。その提案によるのオ」

じゃあ、俺死ぬ前は怪我で出来なくなるまで野球してて全国優勝とかしてたから『ダイヤのA』の世界がいい。

もう1回野球人生をやり直したい!

「ふむ。『ダイヤのA』か・・・戦闘系でもないし、お主の世界に近い世界観であると・・・よし、この世界なら大丈夫じゃ!なら次は特典についてじゃな!」

特典も決めれるの?

それなら、パワプロのサクセスみたいに練習とか試合をすればポイント貰えてそれを

振り分けて成長出来る能力と、自分や他の人の能力をパワプロ基準で見れること、練習や試合とかで故障しない体と、『沢村栄純』とその幼馴染たちと幼馴染になれること、中学三年で青道高校のスカウトが来ること、それから『御幸世代』であること、前世の野球知識。

まあこれくらいかな？ちよつと多かつたかな？

「いやいや、今回はこちらの不手際。それに3つほどしか特典と言えるものでは無いから叶えるのは簡単じゃよ。」

ホント？やったね！ありがと神様！

「よし！準備が出来たぞ。．．．では達者でな！」

りようかいです！

と、ここまで話した所で俺の体が光り、意識が遠いていくのだった。

## 1 話

神様にあつて、転生してからまだ誕生日来てないから8年ほど経つた。

転生した時俺は産まれたての赤ちゃんになつてて、名前は『高瀬 維』と名付けられた。

俺が産まれた時父親は居なくて、後から聞いた話母親の体が弱かつたから母親の実家がある長野県の田舎に母親だけ戻ってきていたんだそうだ。

そして1歳の時に初めて『蒼月 若菜』に出会つた。

それからは3歳になるまで週1ペースで遊んでいたが、3歳からはほぼ毎日一緒に遊んだ。

でも、5歳の時に母親の体調が安定したため、父親の居る東京に引越すことになつてしまつたのだ。

引越す時に若菜と小さい子供あるあるの将来結婚する約束をした。

その後若菜が文字を書けるようになってからは3ヶ月前まで文通をしていた。

いや、今でも文通はしているが、3ヶ月前に野球のリトルチームに入ったから全然こ



ちらから返せてない。

多分怒ってるんだろうなあとなんのなく分かるから、次手紙書く時にいっぱい謝っておこう。

小3になった事で近くのリトルリーグのチームに入ったんだけど、そこで驚く人と出会った。

なんと原作キャラの『滝川・クリス・優』が居たのだ!!

将来、青道高校で監督からの信頼の厚い選手になるこの人に実力を認めさせておけば青道高校に入りやすくなるかも。

そう思った俺は他の投手希望者を蹴落としてでもクリスとバッテリーを組もうと考えてたんだけど、なんと俺の世代に俺以外の投手希望者が居なかった。

投手希望は俺1人のだからスグにブルペンで投げさせてもらえた。

前世では、フォーシームの握りをコントロールを付けるために小さい頃から指を開けてたんだけど、コントロールはこれから付ければいいから、隙間を作らず、中指と人差し指をくつつけて握る。

案の定、コントロールは結構乱れたけど、ストライクは何球かは入ってたし、これ慣れてコントロールを磨けばキレのあるフォーシームをコーナーに決めて三振が取れそうだ!

そうして俺がチームで練習を初めて3ヶ月が経った。  
そう言えばまだ能力値を出してなかったな。

確認しておくか・・・

高瀬維 左投左打 (8)

投手能力

球速Max60キロ

制球E (40)

スタミナF (31)

変化球ナシ

特殊能力

・牽制○

・鉄腕

野手能力

弾道1

ミートF (34)

パワーG (18)

走力E (42)

肩力F(35)

守備力E(49)

捕球E(47)

特殊能力

・鉄人

・・・とまあまだこんなもんか、これでもコントロール、ミート、走力、守備力、捕球、それと牽制○は前世の野球知識等のお陰で、最初から高かったり持っていたりする。

鉄腕と鉄人は転生特典のお陰で持っている。

とりあえず、練習を重ねて、球速が70に到達とコントロールがD(55)まで上がったら前世の俺のウイニングショットだったスライダーを覚えよう。

よし！しばらくの目標も決まったし明日も練習あるから今日はもう寝よう！

## 2話

あれからさらに1ヶ月が経った。

結論から言うのとたった1ヶ月で球速が10<sup>キロ</sup>上がってコントロールもD(57)になっってしまった。

転生特典エグすぎね？

まあ目標は達成したからクリスさんのところ行ってスライダーの練習させてもらお。

??

「クリスさん、ちよつといいですか？」

「・・・どうした？・・・高瀬。」

「前からある程度コントロール付いたら投げたかったボールがあるんです。変化球、練習で投げていいですか？」

「球種にもよるな。フォークなんかは早すぎるからな。何を投げたいんだ？」

「スライダーです！」

「スライダー・・・いいだろう。今年は良くても来年は確実に投手不足になるだろうからな。」

「あざっす！クリスさん！早速受けてもらっていいですか？」  
「わかった。ブルペンに行こう。」

よっし！これでやっとういニングショットが練習出来る！

前世の野球知識とか、練習で掴んだ感覚とか、結構引き継がれてるからスライダーが  
どうなるか楽しみだ！

??

ホントにスライダーを投げるつもりか・・・

俺はカーブじゃなくてスライダーを選んだ後輩投手、高瀬維の事を正直馬鹿だと思っ  
ている。

確かにスライダーを投げる投手は多くいるが、大体の投手は最初に比較的簡単に投げ  
られるカーブから練習する。

だが彼奴は最初からスライダーを練習したいと言ってきた。

彼奴のフォーシームはかなり良い球だ。

俺が彼奴ならブレーキのかかるカーブを練習する。

俺には彼奴が何故スライダーを投げたがるのかわからなかった。

??

クリスさんがそんなふうなことを考えていた頃俺は先にブルペンに行つて肩を作つ

てた。

丁度肩がいい感じになってきたタイミングでクリスさんが防具を付け終えてブルペンに入ってきた。

「じゃあ肩はもう出来てるんで座ってもらっていいですか？」

「了解だ。」

クリスさんが座ると俺はウイニングショットだったスライダーの握りをする。

うん、やっぱり流石ウイニングショット。

指にしっくりくる。

俺の投球フォームはこのウイニングショットを最大限に生かすためのフォームだ。

右手の位置から肩の高さのバランスまで、5年掛けて作ったフォームでスライダーを投げる。

俺のスライダーは中指と人差し指の第1関節に縫い目をかけて、親指をその対角の縫い目にそっておき、リリースの瞬間に手首を縦に切って投げる。

リリースの瞬間に手首を縦に切ってリリースされたスライダーは右バッターインコース寄りの真ん中低めから俗に言うスラブの様な軌道で右バッターのインローギリギリを通ってクリスのミットに収まらなかつた。

なぜならクリスさんが予測軌道と俺のスライダーがの軌道が全然違ったからだ。

ティロテイロティン♪

お、能力に変化でたかな？

投手能力

球速Max70キロ

コントロールD(57)

スタミナF(38)

変化球

・スライダー2(※上限3)

特殊能力

・牽制○

・鉄腕

・・・おお！前世のウイニングショットだからかわかんないけどいきなり変化量2の状態で手に入ったぞ！

よし！小6になるまでは他の変化球は取らずに、特殊能力と俗に言うスタミナロー、球速を上げることに専念しよう。

あ、でも小5になったらバッティングの方も上げよう！

??

俺は正直彼奴を舐めていた。

彼奴・・・高瀬維のスライダーがこんな変化をするなんて夢にも思っていなかった。俺は高瀬を舐めていた事を後悔すると同時に、高瀬となら全国優勝も出来ると思った。

高瀬と同学年じゃないのが残念で仕方ないな・・・。

俺は心のそこからそう思った。



### 3話

俺が初めてクリスさんにスライダーを投げてからもう2年も経った。

俺は当初の目標通りに成長させている。

今の能力はこんな感じだ。

投手能力

球速Max97<sup>ロキ</sup>

コントロールA(82)

スタミナB(73)

変化球

・スライダー3(※上限3)

特殊能力

・牽制○

・鉄腕

・クイック○

・リリース

・ノビ○

野手能力

ミートS (91)

パワーB (75)

走力A (88)

肩力A (86)

守備力S (97)

捕球S (93)

特殊能力

・鉄人

・アベレージヒッター

・走塁◎

・盗塁○

・外野手○

・レーザービーム

と、まあこんな感じだ。

小3の時に比べて、球速が27<sup>キ</sup>、コントロールが3ランク(25)、スタミナが4ランク(42)、スライダーが+1あがった。

投手能力のスタミナは頑張つて走つたけど、コントロールは前世の知識に基づいた感覚のおかげで勝手に上がってくれた。

野手能力の方もパワーと走力以外はほとんど前世の野球知識のお陰で高いって感じだ。

特殊能力は新しく、クイック○、リリース、ノビ○、アベレージヒッター、走塁◎、盗塁○、外野手○、レーザービームを取得した。

でも正味、アベレージヒッターとリリース以外は前世の野球知識のお陰なのでかなりチート小学生になっちゃったんだよね(苦笑)

そして今日は俺の公式戦初登板の日だ。

2個上に、佐倉井つていう右投げの結構凄い球投げる人がいるのと野手能力チートだからこれまでは外野手で出てたんだよね。

ただ今年は佐倉井さんほど凄い投手はいないからエースかと思いきや、試合での内野手との息があまりあわずそこが響いたのか、エースは他の人だった。

だから今日の公式戦初先発初登板は絶対に完封して来年のエースになってやる!

??

## 夏季選手権東京地区予選大会

## 1 回戦

丸亀リトル対足立リトル

原作キャラだけオーダーを確認しておこ。

1 番シヨート 白河勝之

3 番ピッチャー 俺

4 番キャッチャー 滝川クリス優

それと試合前だし、味方の原作キャラの能力も見ておこう。

白河勝之 右投右打

野手能力

弾道 2

ミート A (80)

パワー C (64)

走力 A (86)

肩力 B (73)

守備力 S (92)

捕球 B (78)

特殊能力

・ 守備職人

・ 守備移動○

・ 送球○

・ バント○

・ チャンスメーカー

・ 流し打ち

・ 走塁○

・ 盗塁○

滝川・クリス・優 右投右打

野手能力

弾道 3

ミート S (90)

パワー A (87)

走力 B (75)

肩力 S (98)

守備力 S (93)

捕球 S (94)

特殊能力

・キャッチャー◎

・送球○

・鼓舞

・高速チャージ

・アベレージヒッター

・広角打法

・固め打ち

・チャンス○

・うん、流石原作キャラ。チートだね。

特にクリスさん。

今、中学行っても4番キャッチャーで出れそうだ。

それともう一人、クリスさんに直接色々指導してもらってる4年生の子が居るんだよね。

クリスさん曰く、自分が卒業した後の正捕手で将来有望・・・らしい。

能力は・・・

司波悠一 右投左打

野手能力

弾道2

ミート A (88)

パワー C (67)

走力 S (92)

肩力 A (81)

守備力 S (91)

捕球 B (78)

特殊能力

・アベレージヒッター

・キャッチャー○

・走力○

・盗塁○

・粘り打ち

・流し打ち

- ・送球○
- ・高速チャージ
- ・バント○
- ・盗塁アシスト
- ・一塁手○
- ・三塁手○

と、まあ4年生の中では飛び抜けてるんだよね。

ただ、正捕手はクリスさんだからファーストとサードも練習してる。

キャッチャーの方はクリスさんの指導のおかげで守備力は飛び抜けてて、捕球は僕の球は捕れない時があるけど捕れなくても必ず体で前に落とすからクリスさんの次に安心して投げられるキャッチャーだ。

因みに司波は2番サードでスタメン入りしている。

おっと、考えこみ過ぎてもう審判が出てきちゃったな。

整列だ！

??

「丸亀リトル対足立リトル、足立リトルの先行で始めます。礼！」

『お願いします！』



??

丸亀リトルは後攻だから先に守備につく。

投球練習が終わり、プレイボールのコールがかかる。

「プレイ！」

1球目、クリスさんの要求は相手左バッターのアウトローギリギリのフォーシーム。

ノーワインドアップから斜めにキレイに構えた所に行くイメージをして指先で切る

！

「ストライイク！」

うん、今日は球が走ってる。

打たれる気しないな！

「ストライイクツー！」

ツーストライイク目を取ってクリスさんのサインを確認する。

流石クリスさん。俺の投げたい球を理解してくれている。司波じゃあまだこうは行

かないんだよね。

俺が投げたい球はアウトローへのウイニングショット！

スライダーだ！

「ストライイク！バッターアウト！」

??

試合はウチが14点取って4回コールド勝ちした。

俺は、4回をパーフェクトに押さえて公式戦初先発初登板を見事勝利で終わらせた。

今回はくじ運いいから、決勝まであまり強いところと試合しないため、一応エースである俺は決勝まで先発での登板はしないらしい。

試合の翌日、目を覚ました俺は能力画面を見て驚いたのと同時にある意味納得した。

昨日の試合は公式戦だからか練習試合や紅白戦で貰えるポイントよりもかなり多かったからだ。

確かに実況。パワフルプロ野球（アプリ版）とかでも公式戦は貰える量が桁違いだったから納得だね。

まあ、ゲームと違うところは能力上げると感覚変わるから大会中にあまり上げることができない所かな。

と、言ってたが直ぐに後悔した。

なぜならかなりくじ運がいいのか決勝まで接戦にもならず勝ち進んでしまった。

先発が無いのはわかってたけど、接戦にもならないからリリースすら無かった。

決勝の相手は江戸川リトルだ。

相手の4番には5年生ながら御幸一也がいる。

御幸は確か原作でもチャンスにかなり強かった気がするから、おそらく1番〜3番までで得点圏にランナーを進めて御幸に回るようにしたんだろうな。

まあ、その辺の対策はクリスさんがやってくれるだろうから、俺はそれを信じて振じ伏せるだけだ。

??

今日はスライダーの調子が良かったから7回完投のノーヒットノーランを達成出来た。

成績の詳細は、7回、打者22人、奪三振14、被安打0、四死球1、凡打7、4打席、3打数、3安打、1本塁打、1打点

で、チームは2対0で勝利した。因みにもう1点はクリスさんのソロ本塁打。

まあそんな感じで全国大会に駒を進めた俺達は全国大会でも順調に勝ち進み圧倒的な攻撃力で優勝した。

その勝ち進んでいく中でも、クリスさん達原作組と司波は他を圧倒する活躍を見せた。

クリスさんは、投手に的確な牽制指示を出し、ランナーを釘付けにした。それでも盗塁をした人は例外なくみんなOUTにされていた。

打撃でも大会三冠王争いをしたりと、小学生の中に中高生がいるかと思う程の活躍で

大会本塁打王、大会打点王、ベストナインと最優秀選手賞貰っていた

白河は、全国予選大会からエラー0の固い守備と高い出塁率を誇り、更には大会盗塁王まで手に入れてベストナインに選ばれていた。

司波は、4年生にも関わらずヒットだけならクリスさんや俺、白河を上回り大会首位打者とベストナインを獲得した。

俺は、全国大会は初戦と準々決勝、決勝に先発し準決勝では4回からリリーフで登板。大会奪三振王と大会最優秀防御率と最優秀投手とベストナインに選出された。

こうして全国大会優勝、歴代最多のベストナイン4人選出を成し遂げてクリスさん達の小学生最期の夏が終わった。

## 4話

学年が変わって俺達が最上級生となつてから初めての公式戦

クリスさんがシニアに移り、学年が変わつた最初の大会での前評価は昨年の公式戦では全てクリスさんがマスクを被つていたのでキャッチャーが弱いという悠一にはキツい評価だったが、周りの人達が知らないだけで元々クリスさんが認めるほど悠一の実力は高く、春は全国ベスト4まで勝ち進んだが準決勝で9対7で負けてしまった。

理由は、俺がその前の準々決勝で完封しているため次の試合は投げることが出来なかったからだ。

そして結局乱打戦の末にサヨナラ逆転3ランで負けてしまった。

??

夏の県大会は順調に突破し全国大会の決勝まで駒を進め、春負けた北海道のチームとの雪辱戦を見事5対2で完投勝利を収め、昨年のクリスさんと同じようにMVPに輝い

た。

そして小学校卒業時の能力は

・投手基本ステータス

球速：106<sub>ロキ</sub>

コントロール：S(92)

スタミナ：B(76)

・変化球

スライダー(3)

スローカーブ(1)

・特殊能力

牽制○

鉄腕

クイック○

リリース

ノビ○

キレ○

・野手基本ステータス

弾道：3

ミート：S (92)

パワー：A (81)

走力：S (94)

肩力：S (95)

守備力：S (98)

捕球：S (96)

・特殊能力

鉄人

アベレージヒッター

走塁◎

盗塁○

外野手○

レーザービーム

去年と比べると球速が9キとコントロールが1段階(10)、スタミナは(3)で新たな変化球としてスローカーブを取得した。特殊能力はキレ○が付いた。野手能力に関

してはパワーと走力と肩力が1段階ずつ上がった。

しかし、満を持して中学野球の仲間入りをしようとしていた俺に両親から重大発表があった。

なんと、父親の海外転勤である。

そのため俺はアメリカのジュニアスクールに通うことになった。

??

ー3年後ー

『Hey、もう行くのか?』

「ああ、今までありがとう。コンラッド」

『次会うとしたら国際試合かメジャーでだな』

「そうだね、じゃあもう行くよ」

『goodbye、ユイ!!!』

「goodbye、コンラッド!!!」

俺とコンラッドは拳を合わせてから別れた。

俺は中学の3年間偶に長野に帰りながらアメリカで過ごし、アメリカのベースボールを体験したり、元メジャーリーガーに指導して貰えたりと充分高校野球で一流を貼れる



くらいに育ててもらった。

そして、今度こそ満を持して青道高校の一般入試に合格して青道高校の野球部に入部した。

??

「では、新入生は右の奴から自己紹介をしろ」

青道高校野球部監督の片岡鉄心監督の指示で新入生が自己紹介を始め、俺の番になる。

「高瀬維です！中学はアメリカに居てウインドユースアカデミーで野球してました！希望ポジションは投手です！今年から3年間甲子園優勝エースになるつもりなのでよろしくお願いします！」

俺がエース宣言すると先輩に睨まれるが正直な所事前に集めた情報だとエースを取られる心配は今のところはないって知ってて言ってるから気にしない。

そうして、最後に他の遅刻者を身代わりにして紛れ込んだ御幸一也が自己紹介でクリスさんに宣戦布告して終わった。

てか、クリスさん俺のこと覚えててくれてるかな？

??

一般入部の人達よりも先に野球部に入った者達を含めて能力テストをする事になった。

50m走、遠投といった具合に能力テストが行われていく。

最初に行われた50m走では、俺の他に1人だけズバ抜けて速いやつがいた。

近くのヤツらの話してるの聞いたらボーイズリーグ出身の倉持洋一と言うらしい。ポジションは遊撃手で、スイッチヒッターの様だ。

その他は目につく様な選手はいなかったけど思ってたより皆の身体能力は高そうだな。アメリカで感覚狂ったかな？

因みに俺のタイムは5秒8で倉持に0.2秒差で負けた

50m走が終わり、遠投が始まった。

遠投は凄そうなやつらがそこそこ居た。

御幸一也、白州健二郎と俺の3人が100メートル越えを記録した。

100メートル届いていないとはいえ皆大体80メートル程は飛んでるから日本の選手の評価を改めた。

どうやら、これからはポジション毎にわかれて能力テストをしていくみたいだ。というわけで、投手である俺は、他の投手希望の同級生達とブルペンに移動した。

??

ブルペンには、投手希望の者達のボールを受ける為に、クリスさんと宮内つて先輩が防具を付けてスタンバってた。

それと、片岡監督も投手の能力テストを見るらしい。

片岡監督は現役時代は投手だから当然か：

高島先生が投げる人を指名して行く

投手の能力テストの内容なのだが、持ち球をキャッチャーに数球投げ込んでいくだけだ。

それで、球速、制球、変化やキレといったモノを見ていくらしい。

投手の能力テストをしていく人達の表情は、あまり良いものではない。

見ていると、コントロールが定まらないみたいだ。

さつきはちよつと見直したけど所詮中学上がりたてか：

「次、川上くん。」

「はー！」

川上と呼ばれたリスみたいな顔した奴が、肩慣らしをしていく。

その投げ方に俺は驚いた。

なんと、川上はサイドスローだったのだ。

俺はサイドスローを中学で投げるやつが居ないという先入観から驚いたのだ。

更に俺を驚かせたのが他の奴らとは比べ物にならないコントロールの良さだった。

それにサイドスローで前のやつらと同じくらいの球速が出るんだから期待出来る。

川上は数球程フォーシームを投げると、今度はスライダーを投げ始めた。

このスライダーを見た俺はコンラッドを思い出し、顔がニヤけた。

スライダーを見て感心したのか片岡監督が1年生投手に初めて声をかけた。

「川上、他に変化球はあるか？」

「あります。でも、まだ練習中で…。」

「構わん。投げてみる。」

これまで黙してテストを見守っていた片岡監督が話した事で、能力テストを受けている同級生達がざわめいた。

「シンカーいきますー！」

川上のシンカー宣言に、ボールを受けている宮内さんが、ミットを叩いて応える。

川上がサイドスローでボールを投げた。

ボールは利き腕方向に変化しながら沈んでいく。

だが、スライダー程コントロールが良くないのか、ワンバウンドしてしまう。

宮内さんはボールをしつかりとブロッキングして、前に落とす。

「すいません！」

「ンフー、気にするな！」

その後も川上はシンカーを投げていくが、やはり練習中な為か、フォーシームやスライダーの様にコントロールは定まらないままだった。

「はい、川上くん。そこまでよ。」

高島先生の言葉で川上の能力テストが終わった。

「それじゃ、最後に高瀬くん準備して」

「はい！」

「いよいよ俺の番だ。」

「待ちくたびれたね！」

「さあド肝を抜いてやるとしようか！」

## 5話

さてさてとうとう、俺の投手能力テストの番がやって来た。

捕手は宮内さんからクリスさんに代わるみたいだ。

俺はクリスさんとキャッチボールをしながら挨拶をする

「お久しぶりですクリスさん。リトルの時に一緒だった高瀬維です。」

「ああ、覚えている。久しぶりだな高瀬。」

クリスさんの返球の姿を見てちよつとした違和感を覚えるが今は指摘すべき時ではないので無視して肩を作る

俺はアメリカでやってた様に10球で肩を作り、投手能力のテストを始める。

「クリスさん、まずはフォーシーム行きますよ。」

クリスさんが頷いて、ミットを右打者のインローの位置に構える。

前世から築いてきたノーワインドアップのフォームで俺が投げたフォーシームは、狙い違わずにクリスさんのミットに納まった。

「ナイスボール！」

うん、いい感じだ。

みんな、俺のフォーシームの球速に驚いているが唯一球速に驚いていないクリスさんがミットを構える。

今度のコースは…さつきとは真逆コースか。

俺はクリスさんの要求するコースにフォーシームを投げ込む。

ボールはしっかりとノビ、クリスさんの構えるミットに納まった。

その後も、クリスさんはインローやインハイ一杯に構えたり、ボール一つ分外したりと、

色々なコースを要求してきた。

俺はクリスさんが要求してくるコースに、フォーシームを投げ込んでいく。

そんな感じで100球程、フォーシームを投げ込むと高島先生から「そろそろ変化球を投げなさい」と言われた。

なので、今度は俺の切り札である伝家の宝刀スライダーを右打者のインローギリギリに投げるが、クリスさんが俺の進化した切り札が予想外だったのか1球目は弾いてしま

う。

2球目は同じところに投げるとクリスさんはちゃんとアジャストして来た。

なので、今度は右打者のアウトローにスライダーを投げ込む。

そして、その後高島先生からほかの球種があるか聞かれたので1球ずつ投げる事にし

た。

まずは前世で投げていたスライダーの持ち方を少し弄った高速スライダー。

2球目にチェンジアップ、3球目にスローカーブ、4球目にフォーク、5球目にカットボール、6球目にツーシームを投げて終わった。

??

翌日、新入部員が集められると、能力テストの結果を片岡監督が発表した。

俺と御幸が一軍スタートで他の新入部員は、二軍以下からのスタートだ。

まあ、皆細かいから当然だろう。

でも、青道高校は実力主義なので、学年を問わずに一軍、スタメンの可能性があると  
の事。

だから、一軍に選ばれたからといって油断をしない様にと言われた。

そして、選ばれなかった者は這い上がって来い！待っているぞ！と言われた事で

新入部員の皆は燃え上がっていた。

片岡監督は選手煽るの上手いな。

ならその言葉通りにエースの座を奪い取ってやるぜ！



??

「監督、今年の春から高瀬を登板させることを検討して貰えませんか？」

「……………クリス、お前がそこまで言うほどだったか。」

「ハイ、球速は元よりあのとてつもないフォーシームのノビと変化球…特にスライダールのキレは関東大会でも充分通用するレベルです。」

「わかった、一軍での投げ込みをみて判断する。」

「ありがとうございます。」

「どうやら俺の知らないところで思わぬ高評価を受けていたようだ。」

文字数稼ぎに今現在のオリ主と原作キャラの能力値を書いときます。

高瀬維

・投手基本ステータス

球速：148<sup>キ</sup><sub>ロ</sub>

コントロール：S(96)

スタミナ：C(68)

・変化球

ツーシーム(1)

スライダー(7)

高速スライダー(4)

カットボール(5)

スローカーブ(5)

チェンジアップ(5)

フォーク(4)

・特殊能力

牽制◎

鉄腕

クイック◎

リリース

ノビ◎

キレ◎

対ピンチ○

対左打者◎

緩急○

低め○

尻上がり

ドクターK

勝ち運

対強打者○

クロスファイヤー

投打躍動

制圧

先制ストライク

・野手基本ステータス

弾道：3

ミート：A (92)

パワー：A (81)

走力：S (94)

肩力：S (95)

守備力：S (98)

捕球：S (96)

・特殊能力

鉄人

アベレージヒッター

パワーヒッター

走塁◎

盗塁◎

外野手○

レーザービーム

丹波

・投手基本ステータス

球速：136キ  
ロ

コントロール：B(71)

スタミナ：C(68)

・変化球

カーブ(7)

・特殊能力

ノミの心臓

寸前×

緩急○

川上

・投手基本ステータス

球速：124<sup>キ</sup><sub>ロ</sub>

コントロール：C(69)

スタミナ：E(47)

・変化球

スライダー(5)

シンカー(2)

・特殊能力

打たれ強さ△

対ピンチ△

キレ○

リリース

滝川・クリス・優

・野手基本ステータス

弾道：3

ミート：S 1 (102)

パワー：A (82)

走力：B (73)

肩力：A (88)

守備力：S (100)

捕球：S (99)

・特殊能力

肩爆弾

アベレージヒッター

パワーヒッター

球界の頭脳

鉄壁

ささやき戦術

司令塔

ミラクルボイス

結城哲也

・野手基本ステータス

弾道：4

ミート：B (70)

パワー：A (85)

走力：C (62)

肩力：B (73)

守備力：B (76)

捕球：A (86)

・特殊能力

対左投手○

アーチスト

チャンス○

いぶし銀

連打○

伊佐敷純

・野手基本ステータス

弾道：3

ミート：B (70)  
パワー：B (71)  
走力：C (66)  
肩力：S (100)  
守備力：S (91)  
捕球：S (93)  
・特殊能力  
チャンス○  
アベレージヒッター  
外野手○  
高速レーザー  
ムードメーカー  
送球○  
小湊亮介  
・野手基本ステータス  
弾道：2  
ミート：S (92)



パワー：C(62)

走力：A(89)

肩力：C(67)

守備力：S(100)

捕球：S(94)

・特殊能力

アベレージヒッター

走塁◎

盗塁○

送球○

牛若丸

セカンド○

盗塁アシスト

バント○

守備職人

流し打ち

固め打ち

粘り打ち

チャンスメーカー

攪乱

東清国

・野手基本ステータス

弾道：4

ミート：B (72)

パワー：S1 (104)

走力：E (48)

肩力：A (86)

守備力：B (74)

捕球：B (76)

・特殊能力

勝負師

アベレージヒッター

真・アーチスト

広角打法

ローリング打法

御幸一也

・野手基本ステータス

弾道：3

ミート：B (73)

パワー：C (64)

走力：B (75)

肩力：A (86)

守備力：A (87)

捕球：A (84)

・特殊能力

勝負師

キャッチャー○

満塁男

サヨナラ男

ホーム死守

鼓舞



## 6話

能力テストが終わって数日、春季大会の日が迫ってきていた。

春季大会は、夏の大会のメンバーを選ぶ一番の材料になり得るため一軍のメンバーは殺気立つ程練習に打ち込んでいる。

そして、俺は今、クリスさんを相手にブルペンで投げ込みをしている。

今日の課題は新しい変化球だ。

候補と言うか、高校3年間で取得したい変化球は決めてある。

スクリュー、ジャイロボール、ドロップカーブ、パワーカーブ、サークルチェンジ、ワ  
ンシーム、高速チェンジアップ、カットボール、そして今から練習する縦スライダー。

その内、縦スライダーとドロップカーブ、スクリューは前世で投げてたから握りと投げ方はある程度分かるが、その他は球数の少ないピッチングが出来るようになりたいから。

と言うのも前世は球数が多すぎた結果の怪我だからだ。

俺は前世で投げて居た縦スラの握り、スライダーの親指と中指、人差し指の位置を入

れ替えて握る。

「クリスさん、新変化球として縦スラ練習したいんで縦スラ行きますね〜」

俺はクリスさんに一言伝えてから縦スラの握りで打球フォームに入る。

（感覚はスライダーと同じで手首から先を固定してストレートみたいに切る！）

??

（コレで練習中なのか!?)

縦のボールを受けていたクリスは縦スラの未完成とは思えない完成度に驚いていた。

「スライダー系は全部ジョーカースライダーが元になってるんで案外簡単にこの完成度  
に出来るんですよ。」

「ちよつと待て、ジョーカースライダーってなんだ?」

クリスにとって心を読んだような発言よりも聞きなれないジョーカースライダーが  
気になって仕方なかった。

「じゃあ、教えるんでクリスさんも質問に答えてもらっていいですか?」

「わかった。なんでも聞け」

「じゃあ先に質問の答えですが、アメリカのベースボールスクールの仲間がスライダー

が切り札だつて話したらジョーカーズスライダーだつて言い出してそれから他のスライダーとかと紛らわしい時に使つてるウイニングショットの事っすよ」

「なるほど、ジョーカーは切り札という意味があるからな。」

「じゃあこつちからの質問なんですけど、いつから右肩怪我してるの隠してるんですか？」

この質問にクリスは思わず舌打ちしそうになつた。

だが、維の確信しているような顔を見て諦めることにした。

「去年の秋からだな。だが、ここでチームを離れるわけには行かない。」

「正直に言うと、怪我したからチーム離れるつて固定概念から離れません？」

「なに!？」

「向こうでも肩とか肘とかヤつてるやつら居ましたけどそいつらは代打やファースト、外野とかで試合出てたしブルペンで受けるだけなら全然できるんですから離れるのはナシでつて監督に言えればいいじゃないですか。それが出来るだけの実績があるんですから。」

維のこの提案はクリスにとって目から鱗だった。

「確かにそうだな。俺はこれから監督に直訴してくる。」

「ハイ!またレギュラーとして戻つて来るのをマウンドで待つてますよ。」

「フツ、そう言うのはエースナンバーを貰ってから言うんだな。」

クリスはそう言って監督の元へ向かった。

「……………あ、そう言えば俺クリスさん居ないと投げれないじゃん!」

維は1人だけ後悔をするのだった。

??

春季大会が2日後に迫った今日の投手陣のメニューは、青道の一軍打線を相手にシフトバッティングをする事になった。

青道の一軍打線は春季大会で結果を残して、夏の大会でレギュラーになろうと気合い十分だ。

強力打線と言われる青道打線に最初に挑むのは現状エースナンバーを背負っている、丹波さんだ。

そして、丹波さんのボールを受けるのは、宮内さんだ。

コレは昨日、クリスさんが監督に怪我を告白した事で御幸と宮内さんの2人で試合を回すことになった為である。

青道打線の1番は巧打者の小湊さんだ。



小湊さんは8球程粘って四球で出塁した。

続く2番バッターで登場したのは3年の先輩だが、名前を忘れた。

3年はなんか、東さんが印象強すぎて他の人の名前が覚えられない。

丹波さんは、その3年の人をフォーシームで押し、見事6，4，3のゲッツーに討ち取った。

だが、そこで波に乗らせなかったのが3番のクリスさんが放ったホームランだ。

少しの間、マウンドで呆然としていた丹波さんだが、4番の東さんが打席に入ると大きく息を吐きながら、帽子を被り直す。

丹波さんは東さんに習得したばかりだというフォークを投げたのだが、東さんはボールを膝元まで呼び込んで、右方向に弾き返した。

東さんが打ったボールはグングン伸びていき、ホームランになった。

二者連続ホームランで2失点。

丹波さんはマウンドで、呆然としている。

5人目の打者として、結城さんが打席に入る。

丹波さんは、結城さんに左中間へホームランを打たれた。

これで3連発だ。

コレがトドメとなったのか、丹波さんは一巡で5失点した。

さてさて、いよいよ俺の番だ。

キャッチャーは宮内さんから同じ学年でクラスも一緒の御幸に代わり、御幸がいた所に宮内さんが入った。

肩慣らしが終わり、御幸がマウンドに走ってくる。

「よう、高瀬。打ち合わせに来たぜ。で、変化球は何があるんだっけ？」

「前1回投げただろ。」

「そうだっけ？」

そう、以前に1度だけブルペンでバッテリーを組んだのだがコイツ曰くスライダーの印象が強すぎて他の球種忘れたらしい。

「……………ハア。スライダー、ツーシーム、高速スライダー、スローカーブ、チェンジアップ、フオークだよ。」

「うわ?! 選択肢多すぎね!？」

「そう思つて今日はスライダーとスローカーブとチェンジアップしか投げないよ。」

「OK、今日は無失点でやるぞ!」

「一巡だけしかないんだからむしろノーノーが当たり前にならないといけないんだよ。全国行くにはね」

「確かにそうだな!」

御幸はそう言ってホームに戻っていく。

そして、1番の小湊さんが打席に入った。

さつき見てたけど、多分青道で1番の鬱陶しいバッティングをするのはあの人だ。

1球目の御幸からのサインはアウトローへのオーシーム。

俺は頷いて投げる。

小湊さんは見逃してストライク1個貰った。

続けてインローにスローカーブで緩急を付ける。

コレも見逃して追い込んだ。

次のボールはインハイにボール球。

コレで、カウントは整った。

ココでウイニングショットのスライダーだつてアウトローに決めて小湊さんを空振り三振に打ち取る。

続く2番もチェンジアップで空振り三振を奪い、3番のクリスさんとの対戦になる。

俺は御幸のサインに通りにインハイにフォーシームを投げる。

1球目はレフト線を切れてファールになる。

流石にクリスさんレベルになるとファールとは言えあそこまで持つてかれるのか

2球目は前の打者の決め球に使ったチェンジアップでカウントを稼ごうとしたが手

を出さずに1ストライク1ボールとなる。

3球目でスローカーブを使い読みを外したクリスさんは体制を崩されながらファールにする。

そして、追い込んだ4球目で俺は伝家の宝刀スライダーを投げ、見事に空振り三振を奪ったかと思つたが、なんとクリスさんはスライダーにアジャストして打ち返した。

だが、運悪くセカンド正面のライナーになりアウトとなる。

ツーアウト、ランナー無しの場合で迎えるのは、四番バッターの東さんだ。

まず、インローギリギリにスローカーブを投げる。

今までのバッターと初級の入り方が違うため東さんは手が出せず1ストライク。

そして、2球目はインハイにこれもギリギリで全力のフォーシーム。

1球目との球速差は約50キロ程ある為流石にタイミングが合わず、振り遅れて空振り。

3球目で遊び球無しのチェンジアップで空振り三振に切って取つた。

その後は、結城さんにリードが単調になったのを讀まれてフォーシームを外野まで飛ばされたがセンターの守備範囲内だったためそのままノーヒットで一巡を終えた。

??

いよいよ春季大会が明日へと迫った日の練習後、片岡監督から春季大会のレギュラーが発表された。

春季大会の東京地区予選では、基本的に1年生の出番は無いらしい。

理由としては、高校に入ったばかりの1年生の春はまず打者なら目が付いて行けず、投手なら球速や体力などの面で付いて行けないからだそうだ。

けど、俺は先日のシートバツティングで先輩よりも良い結果を残しているので背番号1では無いものの試合で投げさしてくれらしい。

チャンスは貰えたからあととは結果を出すだけだ。

そして、クリスさんの故障による離脱を受けてチャンスに強い一也が捕手のスタメンを奪い取った。

その後は、試合までの間練習中に投げる時はずっと一也と組んで練習した。

そのおかげで一也は、今俺が投げられる球は全部取れるようになった。

そして、その半日後、とうとう春季東京都大会が開幕した。

## 7 話

ついに、春季東京都大会が開幕した。

青道高校はシードの為2回戦からの登場だ。

そして、青道高校の初戦は現在のレギュラーが全員スタメンの本気体制だ。

そこにはやはり片岡監督のこだわりを感じる。

青道のスターティングオーダーは

- 1番 セカンド 小湊亮介 2年 背番号4
- 2番 ショート 伊藤翼 3年 背番号6

(原作前専用オリキャラ)

- 3番 ファースト 結城哲也 2年 背番号3
- 4番 サード 東清国 3年 背番号5
- 5番 レフト 和泉裕二 3年 背番号7

(原作前専用オリキャラ)

- 6番 センター 伊佐敷純 2年 背番号8
- 7番 キャッチャー 御幸一也 1年 背番号2

8番 ピッチャー 丹波光一郎 2年 背番号1

9番 ライト 才藤辰巳 3年 背番号9

(原作前専用オリキヤラ)

で、控えには

ピッチャー 北原聡 背番号10 3年

ピッチャー 英大和 背番号11 3年

キャッチャー 宮内啓介 背番号12 2年

ファースト 桜井柚希 背番号13 3年

キャッチャー 杉本智哉 背番号14 3年

サード 増子透 背番号15 2年

シヨート 奥大晴 背番号16 3年

外野手 坂井一郎 背番号17 2年

(1人だけポジション名じゃないのは外野ならどこでも入るから)

ピッチャー 高瀬維 背番号18 1年

と、このメンバーで初戦を戦う。

??

1回の表、青道は先発にエースの丹波を起用。

この起用に丹波は応え、1回をカーブとフォーシームの緩急で見事三者三振に抑える。

するとその裏、丹波の力投に鼓舞された青道打線が爆発。

1番小湊がレフト前で出塁すると2番伊藤が右中間を割るツーベース。

更に小湊がエンドランを仕掛けていたためホームまで戻り1、2番で先制。

更にそこから、結城、東もヒットで繋ぎ、1点取り尚も1、2塁のチャンスで5番和泉がライトへの犠牲フライで、ワンアウト1、3塁。

続く6番伊佐敷が四球を貰い、1死満塁で公式戦デビューの御幸一也に打席が回った。

??

(普通高校デビュー戦の初打席でこんな所で回ってくるかよ!?)

御幸は自分の運の良さに驚きながらも落ち着いて打席に入った。

御幸は中学時代からムラが強かったがその分チャンスにはめっぽう強かったため、自



信を持って打席に入っていたからだ。

（このバッテリーの切り札はカーブ……。だけどそのカーブで伊佐敷先発にフォアボールを出した。そして今は満塁になってフォアボールを出したくないハズ……。なら、狙いは初球のカウントを取りに来るフォーシーム!!）

御幸の読み通りにインコース寄りの甘いカウントを取りに来た力のないフォーシームを思いつきり振り抜き、右中間へ打ち返した。

??

「ヒューッ！お見事！君の読み通りだった訳だネ、一也。」

維はベンチから先にデビューした同期に賛辞を送った。

御幸の打った打球はそのまま右中間のスタンドに入り、御幸は高校デビュー戦の初打席を満塁ホームランで飾った。

そこから、青道は止まらず初回到り1-1得点して2回以降も点数を重ね、青道は初戦を2-1対0、5回コールドの圧勝で3回戦へと駒を進めた。

??

そして、青道の3回戦の日がやってきた。

青道の相手はエースの真中率いる市大三高だ。

本来ならこんな所でぶつかる相手では無かったのだが、昨年の秋季大会の青道の成績が悪かったため、シードと行ってもAシードの市大三高とは言い方は悪いが格が違った。

そのためこんなに早くこの2校が対戦するのだ。

そして、今日の先発は丹波さんが寝不足による体調不良でリリーフに回ったため俺が先発することになった。

今日のスターティングオーダーは

- 1番 セカンド 小湊亮介 背番号4 2年
- 2番 ピッチャー 高瀬維 背番号18 1年
- 3番 ファースト 結城哲也 背番号3 2年
- 4番 サード 東清国 背番号5 3年
- 5番 ショート 伊藤翼 背番号6 3年
- 6番 センター 伊佐敷純 背番号8 2年

7番 キャッチャー 御幸一也 背番号2 1年

8番 ライト 才藤辰巳 背番号9 3年

9番 レフト 坂井一郎 背番号17 2年

になった。

5番だった和泉先輩が調子をガクツと落としてしまい、調子あげていた坂井先輩がスタメン入りを果たした。

そして何故に俺が2番にいるかと言うと、アメリカのウインドユースアカデミー時代の成績を高島先生が見つけて監督に渡していたからだ。

コレにより打撃も出来ることが判明し伊藤先輩のクリーンナップ移動で出来た穴にすっぽり入ったと言う訳だ。

??

両チームのアップが終わり、青道対市大三高の試合が青道の先攻で始まった。

俺は2番なのでネクストバッターズサークルで相手投手を観察する。

日大先発の真中は小湊先輩を決め球だと言う高速スライダーで引つ掛けさせ、セカンドゴロに打ち取った。

そして、俺の高校デビュー戦の初打席が回ってきた。

「I'm counting on you.」

俺はちよつとカッコつけて英語でよろしくお願いしますといい、打席へと入る。

そして、英語での挨拶に困惑したのか、相手バッテリーは様子見のフォーシームを外角ギリギリのやや低めに投げてきた。

だが、アメリカではストライクゾーンが外角寄りだ。

アメリカでプレーしていた俺にとっては普通の外角フォーシームに過ぎず、高さも甘いので思いっきり振り抜きレフトスタンドまで持っていた。

コレには相手投手の真中も呆然としていた。

まあ当然といえば当然だろう。

日本のストライクゾーンではギリギリの外角を左打者の俺がレフトスタンドまで運んだのだから。

しかも、俺はまだ1年だ。

だが、その1年だと思つて少々舐めていたからこそ、高さが甘くなりレフトスタンドまで持っていた。

だから、次はこう簡単にホームランは打てないだろうと思ひながら、俺はダイヤモンドを1周した。

その後、真中は1失点するも何とか立て直し、1回は2点で終わった。そして1回裏、俺の高校初登板の時がやってきた。

## 8話

1回表の青道の攻撃が終了し、1回裏の守備になった。

先発である俺はいつもアメリカでやっていたように歩きながらももを上げたりして全身の筋肉を解しながらマウンドへ向かう。

マウンドでの投球練習は7球だ。

とりあえず、このイニングの投球練習はノーwindアップのフォーシーム4球、セツトポジションのフォーシームを3球にすることにした。

コレは日本のストライクゾーンの位置の最終確認のためだ。

一也が四隅のギリギリに要求してくれるため大体のストライクゾーンの幅を確認できた。

そして最後の1球を一也が2塁に送球し、ボール回しをして相手の打者が打席に入った。

相手の1番打者は典型的な左のアベレージヒッターらしいので、一也はインコースの

低めにスローカーブを要求した。

そのサインに頷いた俺は一也の要求通りにインコース低めにスローカーブを投げた。相手は様子見なのか手を出さず見逃してワンストライク。

続く2球目はインハイにフォーシームだ。

多分、緩急活かすために多少コントロールが乱れてもいいから速い球の方がいいハズだ。

俺はそう考えてスピード重視のフォーシームを一也のミットに目掛けて全力投球する。

予想をいい意味で裏切ったそのボールは一也の構えるミットに寸分違わずに入った。

バックスクリーンに表示された球速は148km。

市大三高ベンチは1年の左投手が叩き出した球速に驚いて声も出ていない。

誰よりも1番驚いていたのは90km $\sim$ 100km程しか出ていないスローカーブの直後に148kmのフォーシームというギャップにより、驚きで打つ気をへし折ってしまったようだ。

スライダーを使うまでもなくフォーシームで見逃し三振を奪ってワンアウト。

そして、2番バッターが右バッターボックスに入って構える。

まずは初球、アウトコース低めにフォーシームをなげた。

流石、強豪市大三高の2番バッターだけあってカーブを見せずのフォーシームに反応したが、ノビとキレに対応しきれずファールフライ。

ファーストの結城先輩が追いかけるが、観客席に入ってファールボールとなりワンストライク。

2球目はインコース高めにカットボール。

前の1球でアウトコースを意識させていた為相手バッターは当たると思い、身を捻って避けるが日本のストライクゾーンに入っているためツーストライク。

そして、3球目でアウトコース高めに釣り球を投げるも相手は手を出さず、ワンボール、ツーストライク。

これでカウントが整ったので、今日初の右打者への決め球を投げる。

中指を浮かせてそれ以外で包むように握り、人差し指と薬指で挟み込んで投げる、右打者へのインコース低めへのチェンジアップ。

コレには相手もタイミングが合わずに空振り三振を奪った。

続いてツーアウトランナー無しで打席には左の3番バッター、初球フォーシームで空振りを奪い、2球目でツーシームを投げてファールでカウントを稼ぎ、3球目フォーシームをインコース高めのブラッシュボールでカウント整えて全ての準備が整った。

この世界に生まれてから未だに左打者に1回もファール以外で打ち返されたことの



ない最強の切り札。

前世で1番三振を奪ったこのボールで初回を締める。

いつものノーワインドアップからリリースの瞬間に縦に切る事で回転量を飛躍的に増やす。

そして、物凄い回転量を持って放たれたそのボールは真ん中低めから、甘いと判断して打ちに来た打者の視界から一瞬で消え、一也のミットがあるアウトコース低めいっばいに決まり、空振り三振を奪った。

この瞬間、この球場にいる誰もが悟った。

青道の夏のエースが誰かを。

そして、投手不足を指摘され続けた青道の救世主だと言うことを。

更には、絶対的エースの加入により青道が一瞬にして優勝候補筆頭に躍り出たことを。

## 9話

初回を三者三振に抑えたことで勢いに乗った青道は毎回のように得点を重ね、7回で9点を取ってコールドゲームを決めた

俺の投球内容は7回、102球、6安打、失点0、四死球0、奪三振13だった

今回は予想していたよりも点が入り余裕ができたため、できたばかりのツーシームとカットボールを主体にスライダーとチェンジアップを得点のピンチ以外では使わない縛りプレイをした結果、クリーンナップには全員フェンス直撃の長打を浴びてしまった。

しかし、フォーシームとスローカーブは打たれることなく緩急で後続をしつかりと断てた為、無失点で投げきることができた

だが、今日の試合でツーシームとカットボールはまだ通用しないことがわかってしまったためとりあえず夏までは封印することにする

??

その後も強豪市大三高に勝利した青道の勢いを止めることができず、青道は都大会決勝に駒を進めた

都大会決勝の相手は準決勝で強豪稻城実業を7対2で破った帝東  
青道の決勝のスターティングオーダーは、

1番 セカンド 小湊亮介 2年 背番号4  
2番 ショート 伊藤翼 3年 背番号6

(原作前専用オリキャラ)

3番 ファースト 結城哲也 2年 背番号3

4番 サード 東清国 3年 背番号5

5番 レフト 和泉裕二 3年 背番号7

(原作前専用オリキャラ)

6番 ピッチャー 高瀬維 1年 背番号18

7番 センター 伊佐敷純 2年 背番号8

8番 キャッチャー 御幸一也 1年 背番号2

9番 ライト 才藤辰巳 3年 背番号9

(原作前専用オリキャラ)

大会中に調子を取り戻し先日の準決勝で代打ホームランを放った和泉先輩がスタメンに復帰したことで大会打率3割8分を記録している俺は6番に収まった

先日の準決勝で6イニングを投げ抜いた丹波先輩が変わって今日は俺が先発だ

「関東大会出場が決まったからといって負けていい試合など一つもない！昨日先発した丹波を初め投手陣はいつでも登板できるようにしておけ！」

「はー！」

「高瀬！今日リリーのタイミングは3失点だ！体力は気にせず初回からしっかり抑えよう！」

「はー！」

片岡監督に激励を貰った俺は初回表ののマウンドに上がる

俺はいつものようにノーワインドアップ4球、セットポジション3球で投球練習をす

る

「一回！締まっていこう！」

7球目を取り、セカンドに矢のような送球をした一也が守備陣に声をかける

それを合図に相手の1番打者が右打席に入る

相手の1番はとにかくミート力が高く、しつかり粘ってくる上にボールを決して振らない選球眼に右に流すバツティングでこの都大会、打率4割、出塁率6割を誇る厄介な選手だ

しかしそういう打者には経験上緩急で揺さぶり、シングルヒットまでで抑えればいいと割り切っているのでインコースのフォーシームと内外低めのボール球のスローカーブで揺さぶり、最後は初球と同じフォーシームでファーストフライに打ち取った

2番はバントなどの小技が上手い打者だが1番を打ち取り、ランナーが居ないため対して警戒する必要はなくスローカーブとフォーシームで押し切り見逃し三振、続く3番は左打ちなこともあってスローカーブとフォーシームで追い込んでスライダーで空振り三振

しかし、相手の先発した3年のエースの決め球、フォークボールと150<sup>キロ</sup>を越えるフォーシームと緩急の効いた大きなカーブを前に三者三振してしまふ

だが、相手はクリーンナップ全員が左のためスライダーを打てず、なかなか思ように

得点できないでいた

そんな中、4番の東さんが外のフォークボールを掬い上げるようにライト線へと打ち返し、フォアボールと送りバントで2塁にいた小湊先輩がホームに帰り均衡を破る

味方の援護を貰った俺のスライダーを左バッターが多い帝東は攻略することができず、春の都大会は青道が優勝するのだった

「ナイスピッチ、維！」

「Thank you. 一也」

「流石お前が1番自信もってる球だな！相手の4番の人、高校通算で既に40本打ってるような怪物なんだぜ？そんな人を全打席三振に斬ってとるなんて怪物かよ！」

「Noだ一也。俺は怪物では無いヨ。ただその人が左だから打てなかつただけサ」

「いや、それでも十分すげえって」

「そーかい？なら俺は凄い！」

「流石にそれにツツコめる技量はねえわ〜（汗）」

「HHHHHHHHHHH！（まあ実際は相手の4番がムキになってスライダー打とうとしたからなんだけどネ）」

高瀬維

9回、127球、8安打、失点0、四死球2、奪三振16

??

「うお！今年の都大会青道が取ってんじゃん!？」

「しらねえの？今年の高瀬って言う1年の投手が入って来ていきなり大暴れしてんだってー!」

「高瀬え？誰それ、中学の時そんなのいた？」

「なんでもアメリカのメジャーリーガーが指導してるって言うウインド……何とかってところから日本に戻ってきたんだってよ!」

「アメリカ!？」

「小学生の時同じ青道のクリスと組んで全国優勝してるやつだぜ」

「クリスかあ、肩さえ壊してなけりゃいい選手だったんだがなあ」

「確かに、勿体ねえよなあ」

「それより高瀬だよ！あの高校通算40本越えでプロ確実って言われてる帝東、杉村を全打席三振だぜ!？」

「ありやあ完全に左キラーだな」

「ああ、あのスライダーな」

「うお！なんだコレ!?こんなの左で打てるわけねえよ!」

「実際のとこ帝東でヒット打ったのって右バッターだけなんだろう?」

「これで1年だぜ!?ここから成長して右バッターへのウイニングショット手に入れたらもう手がつけれねえよ!」

「しかもコイツバッティングもいいんだって?」

「三高の真中から高校初打席でホームラン打ったってマジ!？」

「真中って言えば現状西東京で五本の指に入るほどのピッチャーだろ!？」

「でも高瀬も既に負けず劣らずいい投手だよ、実際」

「しかもルックスもいいからもう非公式のファンクラブ的なのあるらしいよ!」

「ええ?」

「私入っちゃおうかな!!」

「まあ、これからある関東大会でも結果出したら本物だろ」



「だな、関東大会には右の強打者達がゾロゾロいるからな」

??

「一氣に有名人ですね。高瀬君」

「この調子なら長い間悩まされてきた投手不足が解消されるんじゃないですか!」

「うむ、だが高瀬はまだ1年だ。関東圏や全国には今まで対戦した打者よりももっといい打者が沢山いる。スタミナも夏の試合を投げきることなんて出来はしないハズだ。」

2、3年生達にはもっと頑張ってもらう必要があるな」

「ええ、今年の高瀬君や御幸君を始めセンスの高い選手が大勢います。2、3年生達にもいいプレッシャーになるでしょう」

「明日からが楽しみですね!監督!」

青道高校の監督室では部長の大田、副部長の高島が監督の片岡と共に夏に向けて思い

を馳せていた

??

キュルルルルギユオン!!

パアン!!

俺の投げたスライダーは一見見当違いの逆球から急激に変化し左バッターのアウトローに構えた一也のミットに収まる

「ナイスボール、維!」

「今日は調子いいや。次!フォーシーム!!」

「OK!」

ノーワインドアップで1度クラブをベルト高まで下げ、体の向きを変えながら右足と

ともに胸の高さまで再び戻し、グラブを高く掲げるように前へ突き出して勢い付けて踏み込み、腰を回して右手と左手の位置を入れ替えるようにしてリリースする

シュツ!! ヒュオオオオオオ!!

パァン!!!

先程と同じく左バッターのアウトローに構えられたミットに低めから吸い込まれるように自身のMAX148<sup>キロ</sup>を出しつつ収まる

「今日はあと10球で切り上げろ! その後はクリスと組んでストレッチと体幹、サーキットメニューだ!」

「Yes BOSS!」

スタミナが足りないと言うのは俺自身春の大会で痛感している。と言うのも後半はフォーシームの球速が130<sup>キロ</sup>台まで落ち込み、スライダーなどの変化球で凌ぐ必要があるが、現状で右打者を抑えるのにフォーシームは必須となっているためどうしても終盤で打たれやすくなるのだ

俺はそのまま一也に10球フォーシームを投げ込んでクリス先輩の待つBグラウンドに向かった

??

「お待たせしました、クリス先輩」

「来たか、調子はどうだ？」

「関東大会に向けていい感じで調整できてきてますよ。不安材料は右打者の攻略とスタミナですネ」

「わかっているならいい。お前にはこれから先チームを支えてもらわないと行けないからな。明日から全体でのアップが終わったらポール間ダツシュ15本を3セット。1本事に30秒のインターバルと1セット事に5分の休憩を挟む。それが終わってからフォーシームだけの投球練習30球。それから今日からやるストレッチ、体幹、サーキットメニューだ。休日はこれの後にポール間ダツシュ20本3セットでその後ノックで野手陣との連携や外野ノックを入れてもらう」

「Yes クリス先輩！よく考えられたいいメニューだと思います！」

「よし、ではストレッチからだ」

「Yes Sir」

こうして俺は関東大会前日になるまでこのメニューをこなしていくのだった

## 10話

関東大会初戦当日、この試合に先発した高瀬維は左打者と足を絡めた攻撃をする春の選抜優勝校である紅海大相良を相手に初回から7者連続三振を奪うと、そのまま6回までパーフェクトピッチング、一方の紅海大相良右のエース菅原も選抜優勝投手の意地を見せ、強力青道打線を8回まで5安打で2塁を踏ませないピッチング

先に試合が動いたのは8回、紅海大相良の2番今辻がツーアウトからセンター前ヒット、3番仲里の当たりが不運なライト前ポテンヒットで1、2塁。続く4番森實が打つたショートゴロをファースト結城哲也が送球を後ろに逸らすエラーで失点。続く5番千種は三振に抑えスリーアウトチェンジ

だが、このままでは終われない青道は9回表の攻撃。遂に4番東がエース菅原を捉え、ライトへのソロホームランで同点にする。しかしこれでも菅原は崩れることなく後続を断ち、その裏高瀬が奮起の三者三振で試合は延長戦へ

ここで青道高校監督の片岡は1つの今後に向けて大きな決断をする。春の選抜甲子園大会で1試合平均1.0安打4得点とチーム打率選抜1位、チーム得点数選抜3位の紅海大相良を相手に9回6安打1失点1.8奪三振の間違いなくここ数年の青道投手の中

でトップと言える成績を残している高瀬を変えずに普段では絶対にありえない1人の投手と心中することを決めたのだ。この時の片岡は両投手の力投に対して珍しく熱くなっており投手の負担が頭から抜けてしまっていた。このことを片岡は試合後酷く後悔し反省するのだが、この決断が後の高瀬維に大きな成長をもたらすことになる。

両投手延長になってもボールは衰えるどころか両チームランナーが得点圏に進めることができぬまま試合は延長14回の裏、ここで先程先制の一打を放った4番の森實が打席に入る。本日6度目の対戦、フォーシームとチェンジアップで追い込むそこから左打者へのスライダーすらも粘られバッテリーが追い詰められる。と、ここで高瀬はここまで投げずにいた封印していたハズのツーシームをぶつつけ本番で投げることを選択、見事にセカンドゴロに仕留めてワンアウト。続く5番千種も右打者のインコース高めのフォーシームでキャッチャーフライに討ち取りツーアウト。そして続いた6番田本に対する初球を失投し力のないフォーシームが真ん中に行ってしまう。選抜で2本のホームランを放った田本がそれを見逃すハズもなく、無情にも田本が打った打球はレフトスタンドへ飛び、青道はサヨナラ負けを喫した。

### 高瀬維

13回2?3、176球、10安打、失点2、四死球0、奪三振28

菅原智之

14回、152球、6安打、失点1、四死球0、奪三振24

??

試合後から寮に戻ってくるまでのことはほとんど覚えてない

手応えとしては前世から数えても2番目のでき、今世では間違いなく1番のできだった

しかし、それでも俺より登板経験が少ないハズの相手のエース菅原さんの投球と比べると正直まだ余力を残していたように感じる

確かにスタミナの差はあるだろうが、今回負けたのは確実にテクニクの差だ

三振数は俺の方が多く、一見して凄く見えるがこの試合の勝敗を分けたのは球数だ

お互いに四死球0と高校野球では滅多にないことが起きたにも関わらず、これだけ球



数に差が出てしまったのは一重に打者一人一人に対する球数を如何に減らせるかと言うテクニツクの差だ

球数を少なく打たせてとる投球は前世から夏を勝ち抜くための課題として取り組んできていたはずだった

今世では2年の差があれど、前世の経験がある以上そんなものは軽くひっくり返るなのに投手経験で勝りながら技術で負けたことは試合に負けたことよりも他の何よりも悔しかった

??

「おい……………おい……………高瀬!」

「!!……………は、はい!?!」

どうやらもう既に青道の選手らに乗せたバスは青道高校に着いていたようだ

「落ち込むのはわかるが今日の試合は相手が1枚上手だった。だが、まだ夏の甲子園でリベンジができるんだ。あまり深く考えることは無いぞ」

「はい……………クリス先輩」

「……………なんだ？」

「俺、今日の試合で自分が何をすべきかわかりました」

「ほう？」

「明日はノースローなんでとにかくいつものメニユーに走る量を増やして、投げれるようになったら俺しばらくブルペンはいるのやめてひたすらバッティングピッチャーやります！あ、もちろんいつものメニユーもちゃんとやります！」

「……………お前が今スタミナ以外で足りないと思うものはなんだ？」

「球数を減らす投球術です！」

（……………高瀬はまだ1年だ……………それなのにもう既にプロが目指すような目標を持って練習メニユーを自分で考えている）

「……………打者は1日27人分だけだ。監督には俺から言っておいてやる」

「Th……………あ、ありがとうございます！」

「フツ……………無理して日本語にする必要は無いぞ。……………まだ向こうの喋り方が抜けないんだろ？」

「ま、まあ……………ahahaaha」

こうして俺の高校野球1年目の春が終わった

テイロテイロティン♪

格上相手に延長12イニング完投するを達成しました

金の特殊能力『復活』を取得しました

特殊能力根性のコツを最大まで取得しました

……………超ラッキー

??番外編①：強化イベント??

---

長野県のとある中学のグラウンドにて、1人の熱血主人公が仲間たちと共に野球の練習に励んでいた

「若菜!!」

「何?栄純」

「あの人からなんか新しいメニュー来てないのか!」

「ハイハイ、そう言うだろうと思って昨日ちゃんと電話で聞きましたよ〜つと」

「なにい!?!で!?!次のメニューは!?!」

「その前に！今までのメニューの内容と狙い、目標と結果の確認からでしょ!!」  
 「そうだった！まずは」

①：シャドウピッチング！

・狙いは正しい体の使い方を身につける！

・目標は右手のクラブで壁を作ってしっかりと腕を振る！この時下半身をしっかりと使つててことを実感しながらやる！

・結果は左腕が見えなくなったのとコントロールが良くなった！

②：体幹メニュー！

・狙いは体の軸を安定させて体全体でのコントロールができるようになる！

・目標は角材の上でもまっすぐ5分立てるようになること！

・結果はコントロールが上がったのと球速も上がった！

③：ランメニュー！ハードル、階段、坂道ダッシュ、ウサギ跳びランニング

・狙いはスタミナ向上とコントロール向上と球速アップ！

・目標は太ももの太さを筋肉で50%にすること！

・結果は1000越えても球速が変わらなくなったこととコントロールが良くなったのと球速が130越えたこと！

④：ネットスローでフォーシームを投げる！

・狙いはフォーシームを覚えることとフォームを体に染み込ませる！

・目標は曲がないノビのあるフォーシームの習得！

・結果はフォーシームを覚えたことで三振が取れるようになったのと球速が上がった

！

⑤：ストライクゾーンを模した鉄棒の四隅にひたすら全力のフォーシームを投げ込む

！

・狙いは大きく体全体を使いながらコントロールを磨く！

・目標は全球四隅に投げられるようになる！

・結果は試合で四死球が減ったのと見逃し三振が取れるようになった！

以上の5つだ!!!」

「ん、上出来。んじや6つめね。高瀬維直伝の変化球を覚える！」

「お、おとおおお！つ、遂に俺もちやんとした変化球をおおお！」

「騒がない！ええつと……この1年間で最初の方にゆった3つのメニューをやりながら栄純くんには5つの変化球を覚えて貰う、栄純くんは不器用だから多分カーブとかは投げられないと思う」

「ムムムムム……!!!」

「だから俺が教えるのはボールの持つ位置と手首から先の向きを変えるだけで投げられ

るスライダーと、その応用のカットボール、フォーシームの持つ縫い目を変えるツーシーム、さらにそれを若干いじったスプリーム（仮称）、元々栄純くんが投げてた驚掴みに近い握りで投げるチェンジアップ……………だつて」

「うおおおおお!!! まずはスライダーだあ!!!」

「ハイハイ、ええつと、スライダーはフォーシームの握りからボールを左に4分の1ずらす。そして手首から先の向きを縦から横にする。あとはその角度のまま縦に指2本でチョップするイメージで投げる……………だつて」

「よっしゃあ! やつてやんぜく!!!」

「はあ、ホント栄純つて単純なんだから」

今日も長野では元気に熱血主人公の声が響いていた

## 11話

関東大会が終了した

優勝は群馬県の桐谷第一

1回戦で激戦の末青道を破った紅海大相良は2回戦で大事をとってエース菅原を温存

背番号10番の御座原が先発し9回5失点と強力浦島学院打線に粘り強く投げるも浦島学院ダブルエース玉城、富士木の継投の前に3得点しか奪えず2回戦で姿を消した

??

一方の青道高校は球数を減らす投球を習得すべく高瀬維がバッティングピッチャーとして毎日のように関東大会時のスタメンメンバー達と3打席ずつ勝負することで格段に打線に厚みが生まれていた



そして、6月の1週目

遂に夏の甲子園予選大会のベンチ入りメンバーが発表された

背番号1 高瀬維 ピッチャー

背番号2 滝川・クリス・優 キャッチャー

背番号3 結城哲也 ファースト

背番号4 小湊亮介 セカンド

背番号5 東清国 サード

背番号6 伊藤翼 ショート

背番号7 和泉裕二 レフト

背番号8 伊佐敷純 センター

背番号9 才藤辰巳 ライト

背番号10 丹波光一郎 ピッチャー

背番号11 英大和 ピッチャー

背番号12 御幸一也 キャッチャー

背番号13 桜井柚希 ファースト

背番号14 杉本智也 キャッチャー

背番号15 増子透 サード

背番号16 奥大晴 ショート

背番号17 坂井一郎 レフト

背番号18 北原聡 ピッチャー

背番号19 白州健二郎 ライト

背番号20 倉持洋一 ショート

このメンバーで1年目の夏を戦う

なお、背番号2のクリス先輩だが起用は基本的に代打で調子の悪い選手と入れ替えプ  
ラスポジション入れ替えたりした場合のみファーストで出られるようだ

そして6月の2週目

一軍背番号組の合宿が始まった

??

## 合宿初日

我らが投手陣はクリス先輩と共にストレッチから体幹、サーキットメニューを朝の間  
ずつとこなし、授業終わりの午後からは各自ブルペンと対戦形式とノックに別れて午後  
を消化していく

そして夕方になり普段ならそろそろ終わりと言うところでマネジ達からおにぎりや  
バナナなどの差し入れを貰う

「おうコラ倉持イ、これからまだまだ練習は続くからなア。今のうちにガンガン食つと  
けエー!」

「純さん………はい!」

「おめエもだ!高瀬エ!」

「Roger!」

（アカン、こら吐くな）

（吐くな）

（可哀想に）

(今年はてめえらの番だぜえ！)

「ボール間20本!!」

「じゃあああ!」

間食タイムが終わりベンチ入りメンバーを半分ずつに分けて2面のグラウンドでボール間ダッシュが行われる

「ベーラン100本!!」

ボール間20本終わった次は各グラウンド10人ずつでホームとセカンドからホームランベーラン100本走る

「き、きつつう〜!.....て、なんでお前はそんなにピンピンしてられんだよ高瀬!!!」  
「まあ普段から走ってるしこのくらいはまだ大丈夫だよ」

「よし、初日はこんなところだろう。最後に全員で声を合わせてグラウンド20周!!! 声出せよ!!」

「!!!は〜!!!」

こうして先程山ほど食わされた倉持は無事成仏した……………  
この人でなし!

??

次の日も朝食前からティーバッティング200球にノックにランニングとハードなメニューをこなし、朝食は丼山盛りの米付きで倉持、白州、一也の3人は吐きそうになりながら腹に詰め込んだ

まあ俺はアメリカいたおかげでポリューミーなのに慣れてたからなんとか気持ち悪くならず済んだけど

そして午前中は授業を受け午後から昨日と同じメニューをこなす

これを連日繰り返し合宿の練習最終日

「倉持、白州、御幸!!お前たちは外れる!!」

「「「?」」」

1年生の野手が全員外され午後4時から片岡監督自らノックを打つ  
そしてそのノックは日が暮れ、ナイターが点いた後もノックは続く

「よし!ラスト1球!気持ち入れていけ!」

「「「「「「「はい!!!」」」」」」」

??

合宿の最後に今年は紅海大相良と日を跨いで帝東、広島新響とのダブルヘッダー

関東大会のおかげで西海大相模との練習試合を組んでもらえた

西海大相模との試合は俺が先発、帝東との試合は丹波さんが先発、広島新響との試合は英先輩が先発する予定だ

そして西海大相模との試合当日

「やあ、関東大会以来だね。高瀬くん」

「菅原さん!!お久しぶりです!!」

「今日はあの日から成長した姿をお見せしますよ」

「ふふ………楽しみにしているよ。じゃあね」

「はい!!!」

??

練習試合1試合目、青道対西海大相模の試合は西海大相模の先行、青道の後攻で始まった

試合は関東大会の再現のように膠着した

関東大会以降練習を重ねたツーシームを中心に少ない球数で内野手の正面にゴロの山を積んでいく

対する菅原もツーシーム、カットボール、シュート、スプリットを自在に操り時折カーブやチェンジアップ、スライダーで三振も奪うピッチングでランナーが2塁に進めないそれに触発されるように高瀬も2塁を踏ませないピッチングをする

試合が動いたのは最終回、この日の高瀬の奪三振数は0、上手いこと打たせてとる投球をしていたが野手陣はここへ来て身体がより一層重くなっていた

そこへ緩いゴロや普段ならアウトにできるような当たりがセーフになつてしまいいこの試合始めてランナーが2塁に進んだ

そして4番の森實がツーシームを捉え、センターの頭を越えるツーベースでこの試合初の失点をしてしまう

しかし後続をしつかりと断つて裏の攻撃に望みを繋いだ



この回先頭の小湊がスプリットをしぶとくレフト前に運んで出塁した

そして続く高瀬が打席に入る

高瀬に対する初球はインコースへのスプリット

低めに外れてワンボール

2球目もインコースだが先程のスプリットと同じ軌道でフォーシームを投げ込む

これには手が出ずワンストライク、ワンボール

3球目はインコース高めのボール

ストリートだと思つて打ちに行くがカットボールがかかっていてライト線への  
フアールになる

そして続く4球目、アウトローでさらにボール1つ分外に逃げるシュート

しかし、高瀬にとってはストライクゾーンだ

ボール球だと打たれる心配をしていないキャッチャーの予想に反し、しつかりと芯で  
捉えられた打球はレフトスタンドに飛び込む逆転サヨナラホームランとなった

これにより青道高校は合宿の練習試合3戦を白星発進することとなった

??

「今日はリベンジされちゃったな。……………どうやってあんなところ打ったの?」

「あそこはアメリカではストライクなんですよ」

「ああ、そういえばアメリカ帰りなんだってね。情報はあつたつてワケか……………今回は俺の負けだけど、これで1勝1敗。ホントの決着は甲子園でつけるよ」

「はい!!!」

「そうだ、イ○スタとかやってる?」

「え? はい、最近のプロの選手が練習方法とかよく上げてるんで見るようにしてますけど……………」

「じゃ、交換しよ。君となら有意義な話ができるだろう」

「いいんですか!?!ぜひ、お願いします!!」

俺と菅原くん（許可貰った）が連絡先交換をした後、1時間ほど共に練習し、紅海大相良は神奈川に帰って行った

「ふむ、あれが2ヶ月たった高瀬……………か。……………末恐ろしいな」

紅海大相良のバスの中でコーチと務める落合博光は2ヶ月前を思い出しながら俺の成長に震えていた

## 12話

真正正銘合宿の最終日

この日は帝東と広島新響との総当り変則ダブルヘッダーが行われた

高瀬は菅原からホームランを放った打撃力を買われ、2番レフトで2試合ともスタメン出場

そしてその起用に答えるように2試合で11打数7安打2ホームマーとクリーンナップ並の成績を叩き出した

投手陣は帝東戦に丹波、広島新響戦に3年英が先発

丹波は強豪帝東打線を失点しながらも粘り強く投げ抜き9イニング完投し6失点と散発的に点を取られ計6失点したものの1イニングで大崩れすることはなくその成長を示した

試合は奮闘する丹波の背中を押す5番結城のグラウンドスラムなどで11点を取り、丹波に勝利をプレゼントした

広島新響戦は先発した英が的確なコントロールとスプリットを武器にゴロの山を築き、3イニングをパーフェクトで投げ抜いた

しかし、4回に2巡目となった広島新響打線に掴まり3失点

だが、3年生の意地とも言える投球で5回を投げ抜き計4失点で試合を作った

そしてリリーフした3年北原がアンダースローで打者を惑わし、内野フライを量産

しかしこちらもまた2巡目で掴まってしまい4イニング投げて5失点となった

試合は2、3、4、5と4者連続ホームランなどで初回から着実に点を重ね、14点を取って乱打戦を打ち勝った

青道は合宿終盤の練習試合を3連勝で飾り、夏の大会へ勢いをつけるのだった

??

## 6月3週目

この日は夏の大会の組み合わせ抽選会が行われ結果、順当に行けば宿敵稲城実業が準決勝で、決勝で市大三高と対戦することとなった

そして迎える7月――

東東京、西東京の全ての参加校が一堂に会し神宮球場にて開会式が行われた

「お、一也じゃん！やっほー」

「鳴、お前ベンチ入りできたんだ」

「とーぜんじゃん！で！高瀬維つてどれ？」

「……………俺だよ。俺が高瀬維」

「君かア！今日は君に同じ左投手として宣戦布告しに来たよ」

「……………背番号18なの？」

「!!」

「ウググググ、的確に急所を突いてきやがって……………さすが俺のライバルに認めた男だ!!  
とにかく、ウチと当たるまで絶対にコケないでよね！」

「……………あれが未来のKINGか……………面白そうだ」

これが西東京を代表する2大エースの初会合だった

??

青道はシード権を持っているため2回戦からの出場となる

初戦の相手は基坂野高校

この試合の先発を片岡監督は丹波を指名

丹波はその期待に答えるように5回を1安打で抑える力投を見せる

一方の打線も東が2打席連続でホームランを放つなど計6本のホームランで5回で14点を取ってコールドゲームで快勝した

続く3回戦は梶北高校を相手に高瀬維が先発

だがこの日高瀬維は決め球であるスライダーを封印し、全打者を打たせてとる投球術で5回を球数28球と言う驚異の球数でパーフェクトに抑え、バッテリーでも3ホーマーを放ちチームは前の試合に続いて計8ホーマーを記録し16点を取ってコールドゲームで快勝した

2度のコールドゲームで勢いに乗った青道打線は準々決勝となる聖ハウル学園との試合、相手は初のベスト8進出で大いに勢いづいており相手の3年生達の気迫に吞まれ、先発の丹波が4回6失点で降板

しかしリリーフした3年英と同じく3年の北原が2イニングずつパーフェクトで抑え、その好投に酬いる用に終盤で打線が爆発、8回に一挙4点を奪ってサヨナラコールドを決めた



??

青道が順調に準決勝へ駒を進めた中、宿敵稲城実業は自慢の投手陣達を武器に青道よりも危なげなく勝利を納めでこちらも準決勝へ駒を進めた

「明日の稲城実業戦。おそらく相手の先発ピッチャーは背番号18番、左の成宮鳴が登板してくると思われれます」

「背番号18じゃとお!?!」

「背番号こそ18番ですがこれまでの投球内容を見る限り稲城エースの澤井よりも打ちあぐねるかと思えます。変化球はスライダーとフォークの2つだけ。ですがどちらも空振りが取れる、三振が取れる球ですね。そしてこのストレート。このストレートが1番空振りを取っているところを見るにこの球こそがその投手最大のウイニングシヨツ

トと言えるでしょう。このストレートを捉えられるかが試合の鍵になりそうです」

「明日の先発は高瀬！お前で行くぞ」

「!!……………ハイ!!!」

「おつ、ようやく英語が抜けて日本語になってきたじゃん」

「ちよ、一也!!それ今言わなきゃダメ?!」

一也の茶化しで成宮鳴の投球に吞まれつつあった雰囲気は笑いで包まれた

そして決戦の日——

??番外編②：主人公始めて上京する??

「おおお!!!ここが東京かア!!!」

「栄純うるさい! 維くんが新幹線のチケットとか送ってくれたんだからおとなしくしてて!」

「でもでも! 俺維さんの試合見るの初めてなんだよ!」

「そんなの私も一緒でしょ! いいからおとなしくしてる!」

「わかったよ……」

(楽しみにしてるから、負けないでよね)

## 13話

夏の甲子園予選大会準決勝

青道対稲城実業の試合はお互いに1年生投手が先発した

青道高校スターティングオーダー

1番 セカンド 小湊亮介

2番 ピッチャー 高瀬維

3番 ファースト 滝川クリス優

4番 サード 東清国

5番 レフト 結城哲也

6番 センター 伊佐敷純

7番 キャッチャー 御幸一也

8番 ライト 才藤辰巳

9番 ショート 伊藤翼

稲城実業スターティングオーダー

1番 センター 神谷カルロス俊樹

2番 セカンド

平井翼

3番 ショート

高井慈緒

4番 キャッチャー 原田雅功

5番 ファースト

大石勝斗

6番 レフト

新堂大輔

7番 ピッチャー

成宮鳴

8番 ライト

山下瑞樹

9番 サード

吉沢秀明

両スターティングオーダーがアナウンスされ、後攻の青道高校が初回の守備に着く

青道先発高瀬がマウンドに上がりゆったりとしたフォームでノーワインドアップで

4球、セットポジションで3球投げる

7球目の球を御幸がセカンドベースへ送球し、先頭打者が打席に入る

「一回!! 締まっつていいっつー!」

「!!!!!! おお!!」

稲実1番の1年生神谷カルロス俊樹が右バッターボックスに入る

(コイツが1年ながら春の王者相手に延長まで投げ抜いた怪物くんか……………監督の指

示は球筋を見ること。この監督が1打席捨てろって言うのはだいたい珍しいことらしい。

先輩達驚いてたし。……………指示通りじっくり見せてもらうぜ)

(神谷カルロス俊樹……………足が早く出塁率が高い上にパンチ力のある打者だ……………予定通り1打席目はスライダー投げずにフォーシームでガンガン押すぞ!!)

御幸のサインに頷いた高瀬は肩幅かつ若干の内股でノーワインドアップの構えに入る。プレートの左寄りに立ち、右足を後ろに引いて胸の前にあるグラブを両手でベルト前に落とす。体の向きを変えながらグラブを胸の前に戻し、右足を上げる。あげた足を前に踏み出しながら右手を掲げるように前に突き出す。そこから右手と左手の位置を入れ替えるように勢いよく腕を振ってボールをリリースする

投じられた初球はインコース高めの厳しいストライクゾーンに構えられた御幸のミットに吸い込まれワンストライク

この1球が高瀬のMAXである148<sup>km</sup>を記録し、球場にどよめきが走る

(なんだコレ!?!高めに外れたと思ったのにキャッチャーが取ったところはストライク!?!なんかの変化球?落とした?)

「1年にしては速えな」

「けど雅さん。全国行ったら150なんて沢山いるよ」

「ああ、1試合あれば攻略できる」

「頼もしいねえ。期待してるよ4番バッター」

「るせエー！」

原田と成宮が談笑している間に2球目がアウトローに突き刺さる

「ストライイ!!」

(あ?低いと思つたら浮くようにしてストライクに入つていった。これがコイツのストリート!?!こんなストリートは初めて見たぜ)

1番のカルロスはそのままインローのフォーシームで空振り三振に切つて取りワ  
ナウト

(……………フォーシームに強いカルロスがかすりもしない球か……面白そうだ)

2番平井を全球フォーシームでキャッチャーフアウルフライに仕留め、3番高井を本日初の変化球であるチェンジアップとフォーシームの緩急で見逃し三振に仕留めて三者凡退で成宮にマウンドをパスした

(へえ、うちをストリートとチェンジアップだけで三者凡退か……やるじゃん)

マウンドで7球投げ終え青道の1番小湊が打席に入る

(確か左バッターへの決め球はスライダーだっけ?まあでもウチのエースくんのスライダーより上つてことは無いよね)

小湊は追い込まれてからもスライダー、ストリート、フォークの全てをカットして  
く

(コイツ…………カットが上手いな…………対青道用に練習した秘密兵器その1を今使うか…………)

(ああー！イライラするなあ全部当ててきちゃつてさ！しかもボール全然振ってくれないし……………ん？……………いいね雅さん。それ最高！)

成宮が小湊に投じた8球目、ストレートとほとんど変わらない球速で投げられたその球は甘いコースのストレートだと判断して打ちに行つた小湊のバットの芯ではなく先っぽに当たり、力のないピッチャーゴロとなつた

(こ、これは……………!!!)

「……………カットボール……………か……………」

高瀬が呟いた一言に青道ベンチは愕然とする

「マジか…………ストレートとほぼ変わらない球速で芯を外しに来るカットボール……………あつちもバケモンかよ……………たはは……………」

御幸はライバルの思わぬ成長に乾いた声で笑う

「まあ、次俺だしなんとかしてくるよ」

高瀬はこの言葉通りに小湊を仕留めたことで自信を持っていた外のカットボールをレフト前に運びワンナウトながらランナーを一塁に置いた

「……………頼もしい後輩だな」



「……………お互いに……………な」

打席に入ったクリスは原田と一言交し目の前の投手に集中する

(カットボールが打たれるなんて完全に予想外だ！次はあのクリスだがまだ秘密兵器その2を出す訳には行かない。シングルヒットはOKだ。腕を振れよ！鳴！)

(わかってるって雅さん。高瀬に打たれたのはシヨックだけどそれで打たれるのはもつと嫌だ！)

成宮はカットボールでカウントを稼ぎ、フォークを引つ掛けさせることでクリスを討ち取る

調子を取り戻した成宮は4番の東をストレートで押し、三振で抑えた

そして試合は点が入ることなく完全に膠着してしまった

しかしその投球内容は高瀬が圧倒的と言うほどの成績を残していた

なんと8回を投げてパーフェクトに抑えていたのだ

(まさかウチの選手がここまで打てないとはな……………やはり関東大会で一皮剥けたか……………厄介な事だ……………)

それに対し成宮は終盤になって四球が増え、高瀬に全打席ヒットを打たれるなどピンチを背負うも終盤から解禁した秘密兵器その2であるスプリットが冴えを見せなんとか青道打線を0に抑えていると言った感じだった

だが、8回の青道の攻撃、9番シヨートの伊藤が頭部へのデッドボールでノーアウトのランナーを出すとして一番の小湊がバントで送り、2番でこの日全打席ヒットを放っている高瀬が打席に入った

いくら打たれているとはいえ敬遠して次のクリスに回すのは危険だと判断したバッテリーは勝負を選択、インコースのカットボールを中心にカウントを稼ぐが決めに行つたスプリットをセンター前に運ばれる

セカンドランナーで伊藤の代わりに代走として出場していた奥は3塁を蹴つてホームに戻るがセンターカルロスの素晴らしい返球によりアウト

しかしそこで更なるアクシデントが起こる

先程のタッチプレイの際、奥が足を痛めてしまったのだ

度重なるアクシデントにより青道の選手たちには不穏な空気が流れ、攻撃のリズムも途切れてしまった

0対0で迎えた9回裏の稲城実業の攻撃

シヨートには1年生の倉持が入った

だが攻撃中の不穏な空気は守備にも影響を与え、サード東の悪送球でランナーが出塁しパーフェクトが途切れてしまった

そしてパーフェクトが途切れたという事実がさらに守備陣にプレッシャーを与える

続く打者のセンター前の当たりをセカンド小湊がファインプレーで止めるもののセカンドベースへの送球に倉持が入り損ねオールセーフとなりノーアウト1、2塁となる  
ここで稲実を手堅くバントでランナーを進めようとする

だが高瀬のフォーシームの勢いを上手く殺すことが出来ずにファーストに強めのバントが転がる

しかしファーストクリスの動き出しが遅れ上手くバントが決まってしまう  
と、ここで打線が上位に戻ったところでカルロスに代打が送られる

代打は3年の昨年2番打者としてバント成功率100%だった選手だ

だが、この試合初のピンチに御幸の頭は上手く回らなくなっており、周りの選手も声をかけることが出来ない

そして高瀬が投じた初球インコースの球を初球スクイズでファースト方向に転がし  
クリスの送球も間に合わず青道高校はノーヒットでのサヨナラ負けを喫した

「礼!!」

「!!!!!!」

球場は高瀬のノーヒットノーランと劇的な幕切れに興奮した観客の拍手で埋め尽くされていく

「試合では勝ったけどピッチャーとして投げ勝ったとは思ってないからな!」

「……………ああ」

「……………この試合で点を取れなかったのは俺のミスだ。すまない!」

「顔をあげてください片岡監督。点を取れなかったのはチャンスでことごとく三振した4番の俺の責任です!それに負けたのは俺のエラーがきっかけでした……………。パーフェクト途切れさせてすまんかったな高瀬」

「いえ……………パーフェクト逃したことよりも先輩達が全国に知られてないことの方が悔しいです!!」

「ホンマ……………出来のええ後輩やな……………」

東達3年生の夏が終わり稲城実業は決勝に駒を進めた

青道に勝った稲城実業の勢いを止めることが出来ず夏の甲子園予選大会は稲城実業が優勝し、甲子園への切符を手にした

??

甲子園へ出場した稲城実業は3回戦での八広工業との試合

2対2の同点で迎えた6回から登板した成宮は8回、1死3塁で迎えたピンチ

稲城実業バッテリーは相手チームのスクイズを読んで外すものの成宮の投じたボールは原田にも取れない大暴投となり失点

結局その失点を取り戻せず稲城実業は3回戦で姿を消した

## 14話

夏の大会が終了し、新チームが始動した

新キャプテンはチーム全員満場一致での哲さんが選ばれた

そして今年は関東大会での結果を受けて練習試合の申し込みが殺到し夏休みの練習試合は平日は週で2試合、休日は毎日3試合と手当り次第で試合をしていた

3年生が引退したことで倉持が正式にショートのレギュラーに定着しつつある

そして白州と坂井さんのレギュラー争いが激化する

そんな中俺はノーヒットノーランを連発していた

ガッシャン!!

「おい！維！この前から何イライラしてんだ！」

「……………」

「おい！なんか言ったらどうなんだ!!」

「……………」  
「思うような内容にならないんだよー」

そう、ノーヒットノーランやパーフェクトゲームをいくらやったところで現状9月までの短期間で得られるものなんて何も無い

本音を言うならしばらくブルペンでもマウンドに立ちたくない

「……………正直言って来て貰つてアレだけどこんなレベルの相手にいくらノーノーやったところで得られるものなんて何も無い。打たせようとしても三振されたんじゃ練習にならない」

「……………お前……………いつからそんな傲慢な物言いを……………!」

「傲慢なことくらいわかってるさ!」

「!!」

「だからって俺が投げるとチームのためにならないんだよ!!」

(……………確かに、全国トップクラスのチームを相手にアレだけのピッチングをしてきた  
維なら、練習試合の対戦相手に不満を持つても不思議じゃないことはわからなくもな  
い)

「……………稲実との試合からか?」

「……………!!」

「本当にお前が不満に思っているのはバックの野手達じゃねえのか?」

「……………」

凶星だ

けど、ずっとそれを考えないようにしたかったのに

「……………はア、凶星か……………」

「……………」

「あのなあお前ウチの選手があんな負け方をして、なんもしてねえと思ってるのか？」

「!!」

「まあ確かにお前がポンポン三振取って打線もバカスカ打ち、ノーノーやパーフェクトも普通にやっちまうけどな、お前が普段やってる下半身トレーニングの間、お前が見れないところでみんなずっとノックやってんだぜ？」

「なっ!？」

みんなが？

「まあお前の言い分も一理あると思うし、お前が登板したくないってのは俺から監督に言っというてやる」

「……………一也……………」

「だが、その代わりにいつもより多く俺ら相手に投げてもらうからな！」

「……………ああ！」

夏休みに一悶着あったりしたがなんとか全員で乗り切り、青道は23連勝で秋の大会へ突入した



??

秋大前時能力値

高瀬維

・投手基本ステータス

球速：148<sup>キ</sup><sub>ロ</sub>

コントロール：S(96)

スタミナ：B(79)

・変化球

ツーシーム(1)

スライダー(7)

カットボール(7)

スローカーブ(5)

チェンジアップ(5)

フォーク(4)

・特殊能力

牽制◎

鉄腕

クイック◎

リリース

ノビ◎

キレ◎

対ピンチ○

対左打者◎

緩急○

低め○

尻上がり

ドクターK

勝ち運

対強打者○

クロスファイヤー

投打躍動

制圧

復活

先制ストライク

根性◎

・野手基本ステータス

弾道：3

ミート：S (91)

パワー：A (81)

走力：S (94)

肩力：S (100)

守備力：S (98)

捕球：S (96)

・特殊能力

鉄人

アベレージヒッター

パワーヒッター

走塁◎

盗塁◎

外野手○

レーザービーム

夏の大会から感覚が変わらないよう冬になるまで基本能力はあまり投球感覚と関係の無いところだけをあげた

打たせてとる投球術を身につける過程で格段にカットボールが良くなったため高速スライダーを使う必要が無くなってしまった

とりあえず秋大が全部終わって冬のオフになるまでは球速と特殊能力は加えないようにする

??

そして9月

秋季大会一次予選抽選を終え新チームでの初の公式戦

秋季大会二次予選（ブロック予選）1回戦

青道（西東京）―都富士林（東東京）

（青道グラウンド）

夏に続いてエースナンバーを背負った高瀬が5回をパーフェクトで抑え打線も高瀬を相手に真剣勝負を重ねた青道打線は2番高瀬、3番クリス、4番結城、5番増子、6番伊佐敷、7番御幸の6人にホームランが飛び出し、全員に2安打が飛び出すなど26安打21点を取り5回コールドで快勝した

この大勝で勢いに乗った青道は2回戦、3回戦も20安打越え2桁得点の5回コールドで勝利し秋季大会本選へ駒を進めた

10月

秋季大会本選大会抽選会を経て

本選大会——開幕——

本選1回戦

青道（西東京）——関大第一（東東京）

青道スターティングオーダー

1番 ショート

倉持洋一

2番 セカンド

小湊亮介

3番 ピッチャー

高瀬維

4番 レフト

結城哲也

5番 ファースト

滝川クリス優

6番 センター

伊佐敷純

7番 キャッチャー

御幸一也

8番 ライト

白州健二郎

9番 サード

増子透

関大第一スターティングオーダー

1番 センター ジョシユア瑠偉

2番 キャッチャー 浅野裕二

3番 セカンド 芦田一真

4番 サード 足立飛雄馬

5番 ファースト 梅田龍

6番 ショート 宗本颯馬

7番 ピッチャー 森安亮太

8番 レフト 丙寅一

9番 ライト 佐賀井斗雷

試合は関大第一の先攻で始まった

(ジョシユアって………ポジションと言い打席といいカルロスかよ)

ゆったりとしたフォームのノーワインドアップから初球のフォーシームを投じる

高瀬のフォーシームはアウトローに構えられた御幸のミットに吸い込まれた

続く2球目は同じ所から沈むツーシームで空振りを取り追い込むと3球目も同じ所

へチェンジアップを放って空振り三振を奪いワンナウト

この圧巻の投球に吞まれた関大第一の打者達は2巡目に入っても1人も前へ飛ばせ

ず1人連続奪三振を記録

打線も好調をキープし今年の夏の甲子園ベスト4投手である好投手森安相手にコツコツと上位打線で得点を積み重ね、8対0の7回コールドゲームで青道が貫禄を見せつける試合となった

なおエースの高瀬は参考記録とは言え公式戦初のパーフェクトゲームを達成した

そして青道はこの秋丹波、川上の継投と高瀬のフルイニング力投によって秋の大会で準優勝に輝く

優勝した市大三高が神宮大会ベスト4に進出したため春の甲子園東京に出場枠が増えた

そして準優勝の実績を持って青道高校は約6年ぶりの甲子園への出場を確定させた



## 15話

秋の大会が終了し、礼ちゃんが中学生のスカウトへ全国を飛び回る時期が来た

それに加えてクリス先輩の肩が良くなったことをきっかけにエースの俺とそれ以外は2年生だけの県外遠征も行われた

そして丁度俺たちが遠征に行っていた間に原作2話に当たる主人公VS東さんの1打席勝負があったようだ

だが、原作主人公は『若菜』を通してムービングを自覚させた上で武器とし、さらにフォーシームや変化球を仕込んだりして強化してある

その完成度の高さは東さんをも初見とはいえ3球で空振り三振に抑えて見せたほどだ

一也から写真と共にベタ褒めしてるメール来たから間違いない

そして12月下旬

全部で8日間に渡るウインターキャンプが行われた

こういう時に鉄人あるっていいね

筋肉痛ならないし

流石に1日練習すればヘロヘロになるが一晩寝れば次の日には完全復活できる  
さらに合宿特有の大量のポイントは大助かりだ  
正月休み明けたら能力上げまくって2ヶ月で慣らしだ！

??

12月30日

地獄の冬合宿が終了し青道高校野球部の練習納めとなった

??

俺は今年の正月休みを利用して長野の祖父母宅に帰省していた

大晦日の今日は知ってる人達の所へ挨拶回りだ

「久しぶりだね。ただいま、若菜」

「!!……………維くん!!……………お、おかえり……………なさい」

「ん?なんか元氣無くないか?」

「う、ううん!そんなことない!!……………でも、突然家にこられたからびっくりしちやって

……………」

「ははは、サブライズ成功だね!」

「……………ん」

……………アレ?なんかコレ可愛い。待ってヤバくない!?

いや、確かに若菜は初恋の相手だから?可愛いのは知ってるよ?

でもさ、若菜って普段電話で話しててもハキハキとしたタイプじゃん！

ギャップエグいつてエエエエ工!!!

羨らしい若菜なんて初めて見た

さつきからドキドキしっぱなしなんですけどお!!

「あ、明日………一緒に初詣行かね?」

「う、うん」

どうしよ、ドキドキして会話続かねえ

助けて一也!!

この時、俺は内心で若菜の可愛さに悶えまくっていたせいで一つの視線に気がつくことができていなかった

「お、おとお! 若菜! いつの間にこんないい顔した男捕まえてたんだ!」

「お、お父さん!!」

え、若菜のお義父さん!? ↑テンパッテキガハヤイ

「え、えっとお久しぶりです。一応小さかった時にあってるんですけど………」

「んんん？………おお！高瀬さん！この子か！大きくなったねえ！幼馴染が相手とは………若菜もやるじゃないか！」

「ちよつと！お父さん!!」

「じゃあ、あとは若いお2人でつてなく！これ1回行ってみたかったのよ！」

あ、嵐の様に去っていったな………

「………」

「………」

むう、また会話が無くなってしまった

なにか………なにか………あ、そだ！

「若菜って高校決めたの？」

「あ、う、うん。………えつと………その………わ、私も青道に行くつもり………」

………は？

「………え？は？………青道!?なんで!?!」

「え、えと………その………栄純！栄純も入るし………」

………なにイ!?!メールでこの2年間ずっと思わせぶり風に口説いてたはずな

のにイ!?!

や、やはり原作主人公には勝てないのか!?!

「そ、それに……維くんのこと近くで見たいし………」

げ!!!!!!  
げ、幻聴じゃないよな!!

これ脈アリじゃね!?!行ける?行っちゃおう!?

い、いや、待て待て!勘違いと言うのはよくある事だ!前世でもそれで恥ずかしいおもいしただろう!高瀬維!!!

こ、ここは一度冷静にならなくては………

??

「そ、それに……維くんのこと近くで見たいし………」

い………言っちゃった~~~~ツッ

どうしよ！多分バレちゃったよね!?

いや待て私！

今まで小さい時からの手紙やメールにはそれらしい事沢山書いてた！

あんなこと書いてて私のこと好きじゃないハズがない！↑錯乱

もし違ってもあんなこと（思わせぶり風な口説き文句）書いて私を口説き落としたん

だから責任取ってもらわなきゃ!!

行っちゃえ！私！

「あ、あのね——」

??

どうしよ、今の言葉だけなら俺の事好きないように聞こえるけど惑わされちゃダメだぞ

高瀬維!!

最初に主人公の名前出てただろう!!!

勘違いしてただけと言うのが一番最悪だ!

友達が良かったのにと言われこれまでの関係が崩れかねない!

ぬググググ!!

一也ア!!! 教えてくれエ!! ゼロは俺に何も言っではくれない……

……よし、ネタを挟めたおかげで少し落ち着けた

だが、問題はまだ何も解決していない……どうする?

確かめる方h「あ、あのね——」——!!

「わ、私ね、小学生の時から好きな人がいるの」

……↑脳死寸前

「初恋の人……」

……↑心臓停止寸前

「えっと……す——」「ちよつと待った!」——!!

「ゴメン、俺から言いたい。じゃなきやちよつと俺が納得できないし」↑錯乱状態



「初めて会った時から一目惚れでした。これから一生隣にいてください!!」↑まだ錯乱してる

「は、はい。これからは一緒に……ね?」

「……………これ俺死ねるわ」

俺の脳は若菜の魅力にとっくにやられ最後の「ね?」がトドメとなって脳が停止し、絶してしまった

「……………え?ちよ!ゆ、維くん!」

俺が目覚めたあと、若菜から「私達もう恋人なんだよね」って一言でまた意識飛びました……………マル

## 16話

俺に恋人ができた正月休みから2ヶ月――

冬の対外試合禁止期間で我が青道高校投手陣はそれぞれ個人で課題を抱えて練習に臨んだ

その中でも全員が重視したのはコントロール

丹波くん（この冬の間には仲良くなつて呼び名を変えた）は回を重ねて疲れたあとのコントロール

右のサイドスローでコントロールとスライダーを武器に秋から実績を残しつつある川上憲史――通称ノリはシンカーの制球難の解消を

そしてエースナンバーを背負う俺はスライダー、フォーシーム、チェンジアップ、ツーシームは自信を持ってコントロールできるがそれ以外の球のコントロールが甘く強打者になればなるほど投げられる球が限られてくるためその解消

と、一軍投手それぞれ個人のコントロール練習の為俺が監督に直談判し前世で有名だった某野球漫画（アニメ）のアメリカ編に登場したストライクゾーンと同じ広さの鉄棒が付いた的の台を用意してもらい

丹波くんは走りながら握力の握るやつをすることで試合の終盤に近い状況を作った上での向かつての投げ込み

ノリはひたすらの右下を狙ってシンカーの投げ込みと主軸選手達との対戦でシンカーを決め球に勝負の繰り返し

俺は的の四隅に変化球をひたすら投げ込みと青道の主軸相手に週一で解放する日はあるがスライダー、チェンジアップ、ツーシームを封印しての対戦を繰り返した

結果副産物として我が青道打線は哲くん（これも冬に家に呼ばれるほどには仲良くなった）が覚醒するなどさらなる厚みが生まれ歴代最強と誇れるであろう攻撃力を得た  
そして青道高校は選手達は初めての、監督は就任1年目以来の甲子園へと足を踏み入れた

??

春の甲子園

通称センバツ

各都道府県大会地方大会の成績から選抜された32校で戦うトーナメントである――

その場所に立つことを許されるのはほんのひと握りの勝者のみ――

すべてのチームが憧れ、夢見る聖地

甲子園――

そんな場所に昨年秋東京都大会を制した我が青道高校は6年ぶりに立っていた――

青道	3	1	2	0	1	1	0	8	仙台郁栄	2	0	0	1	0	1	4
----	---	---	---	---	---	---	---	---	------	---	---	---	---	---	---	---

『青道高校、選手の交代をお知らせします。8番ピッチャー丹波くんに代わりまして高

瀬くん。8番ピッチャー高瀬くん』

「おおお！きたあー！」

「コイツやコイツ！コイツを見に来たんやー！」

（ふう、やっぱココは違うなあ……………やつと戻ってきた。ソ○モンよ！私は帰ってきた！つてか？……………こんなこと考えれるつて……………我ながら余裕あるな）

（ん？初めての甲子園のマウンドでノーアウト満塁だというのにコイツは……………）  
フツ

春の甲子園初戦、打線が爆発した青道は7回で8得点し、その強力打線を全国に知らしめた

一方で先発した3年生丹波は強豪仙台郁栄のこちらも強力打線を前に連打を浴び、失点にしたものの大崩れすることなく7回を迎えるが上位から始まったこの回、先頭打者大井にヒットを打たれ2番に連打を浴び3番鷹村に四球を与え7回裏ノーアウト満塁のピンチを迎える

そして4番が打席に入るこの場面で青道はエース高瀬維を甲子園デビューさせた（今世での甲子園1球目はこの球しかない。ど真ん中で直球勝負!!）

高瀬は前世から磨き上げた独自のフォームを取り、キャッチャー滝川が構えると真ん中のミットへ全力のフォーシームを叩き込む

ドオン!!!

『ストライイ!!!』

この1球は球場全体をどよめかせ、その球をスピードガンは151キロと計測した

「おおお！150の大台きたあ！」

「1年で全国最強投手だった菅原と互角に投げあつた怪物！」

「仙台郁栄の左のスラッガー馬場が振ることすらできないこのストレート!!!」

「昨年の夏では準決勝で稲実相手にノーヒットノーランでありながら味方のエラーに

よつて甲子園に出られなかつた規格外!!」

(……………的なことを外野が騒いでんだろおなあ。ダイヤのAだし)

高瀬は滝川のサインに頷き、2球目のチェンジアップをインコース低めに投げ込んで

いく

この緩急に馬場は耐えることができず、空振りしてしまう

(はい、追い込んだ。ワンナウト確定♪)

ホームラン数が高校通算50本を越える左のスラッガー馬場であっても相手打者が

左である限りこの自信は揺るがない

左のクリーンナップを追い込んだ場合の球は事前に決めてある

前世から並み居る強打者達を空振りさせてきた究極のウイニングショット

伝家の宝刀ジョーカースライダー

高瀬維の持ち球であるツーシームと同じ箇所だが指の隙間をなくし手を90度傾け、切るようにリリースされたボールは真ん中の甘い箇所から鋭く急激に変化し、ボールゾーンに構えられた滝川のミットへと収まった。バットを躲して

スパアン!!!

ワアアアアア!!!

4番の馬場を3球で空振り三振に切つてとり、そのまま高瀬に吞まれた仙台郁栄打線はその後8人打席立ち、その全員が三振に終わった

青道高校 校歌

希望に燃える 若草の

清き心に風そよぐ

友と歩みし この旅路

迷わず行けよ

ああ青道　ああ我が道

都の大地は晴れ渡り

光豊かに　花が咲く

友と歩みし　この旅路

行けばわかるさ

ああ青道　ああ我が道

青道高校初戦突破

名門復活を掲げ、挑む甲子園

この一勝から青道高校野球部の快進撃が始まる

??



『神宮大会で優勝したことで全国大会2連覇がかかっている大会ですが、どこか気になるチームはいますか?』

「いえ、現状僕が怖い打線はウチだけです。チームで言えば成宮鳴と原田雅功さんがいる稲城実業と天久光聖のいる市大三高、轟雷市が入ってくる薬師と本郷正宗が入ってくる巨摩大藤巻、あとは茂野吾郎や佐藤寿也、眉村健がレギュラーの海堂くらいですかね」

『あ、あの……ほとんどのチームがこのセンバツに出場していないチームですが……』

「本番は夏の都大会と甲子園ですから。メディアを気にせずには皆さん努力してて凄いですけどウチの打線は今年プロに行った菅原くんでも止められないし僕はそれでも打ち崩せない。この春は僕らの物だつてことを証明しますよ」

(まあこうして煽つとけば俺は批判食らうだろうけどウチが優勝できるのはわかっている事だし、実際やつて見せればマスゴミども何も言えなくなるだろうさ)

その後この試合後のインタビュは全国放送でも取り上げられSNSでは大炎上を記録するがこのインタビュを知った青道高校野球部の新3年生達が奮起するキツカケとなり青道高校はその年チームで計15本(内訳:結城4本、滝川4本、高瀬3本、増子2本、伊佐敷1本、御幸1本)のホームランを放ち、チームの総得点は44点とどち

らも甲子園の歴史に残る成績を誇り、投手陣も背番号10の3年生丹波が3試合に先発、計20イニング、失点6と強力打線がウリの対戦相手に自分がエースだと言わんばかりの庄巻の投球、そして2試合にリリーフとして登板、1試合に先発し、計7イニングに登板した背番号11の川上はリリーフした2試合共に三者凡退と安定感を示し、先発した1試合でも5イニングを投げ四死球0、失点0と抜群のコントロールを披露した。そして初戦の試合後インタビューにて爆弾発言をかましたエース高瀬維は5試合全てに登板、リリーフした試合は9イニング27人全て三振に切つてとり、先発した決勝戦にて記録はエラーとなったピッチャー強襲があったもののランナーを1人しか許さず、18奪三振でノーヒットノーランをやつてのけ青道高校は春の甲子園で優勝するのだった。

# 17話

「はようございませす！」

「はようございませす！」

「はようございませす！」

「はようございませす！」

早朝、青道高校野球部の専用グラウンドではグラウンドに入ってきた監督の片岡に選手達が次々と挨拶をする

そして新入生が2列に整列しその前に片岡が向かい合い、片岡の後ろに上級生達が集まっていた

「これで入部希望者は全員か？」

「はい！」

「まずは順番に自己紹介をしてもらおうか……………」

「はい！」

「南中出身、竹本篤。よろしくお願ひします！」

「次！」

「宮川シニア出身、大嶋広。希望ポジションはショートです！守備には自信があります！！頑張りますのでよろしくお願いします！」

「次！」

「はい！赤城中出身、沢村栄純！ここには維先輩からエースを奪う為に来ました！よろしくお願いします！！」

??

「ここには維先輩からエースを奪う為に来ました！よろしくお願いします！！」

流石原作主人公、言うことが他とは違うなあ

ん？なぜ原作では寝坊した主人公が並んで挨拶してるかって？

そりゃあもちろん俺が前日に透くん（レギュラー陣とはみんな仲良くなつて下呼び）と洋一に監督からカミナリが落ちないように釘を刺しておいたからだ

「よし！1年生は全員Bグラウンドに集まつて体力測定。2、3年生はAグラウンドで全体練習！高瀬、丹波、川上は全員投げてもらおうぞ！」

「「「「「「はい！」「「「「「「」」」」」」」」

こうして春と秋に訪れる新生野球部の半年が始まった

「マネージャー希望の蒼月若菜です！進学の為に長野から来ました！1年の沢村栄純とは同じ中学で一緒に野球部に入つて居たので近くで野球が見たくてマネージャー希望しました！よろしくお願いします!!」

……………彼女がマネジとして入部して絶賛幸せです、マル

??

春季東京都大会準々決勝

青道―市大三高

(よし！カウントは2―1……………外へ2球続け打者の打ち気は逸らした……………そこへ内角に高速スライダーだ!!)

キャッチャーからのサインに頷きマウンドに立つ市大三高エース真中がセットポジションから投球動作に入る

(お前の最高のボールでねじ伏せろ!!)

真中の投じたボールは真ん中の甘いコースから急激に変化し内角の厳しいコースに変化する

(よし！注文通り……………)

キーン!!

キャッチャーの要求通り厳しいコースに投げ込むも6番御幸に難なく弾き返されてしまう

「うおお〜！いったあ〜！」

「初回……………いきなりの満塁ホームラン!!」

「す、すげえ!!内角のスライダーをあそこまで持つてくか!？」

「こいつがああ御幸一也か!!」

「アイツまだ2年だろ？つーか……………あのクリスや高瀬をベンチに温存してなお御幸が6番打ってる打線が怖えーよ!!」

「う、うそだろ……………」

グラウンドスラムを放った御幸をベンチ入りしているメンバ―たちが歓迎する

「てめえヤマ張って振り抜きやがったな……………」ヒヤハハ

「ウイニングショット打たれて……………真中さん青ざめてやがるぞ」ヒヤハハ

「マグレだろ、次はそう上手くはいかんさ」

「るせつ。マグレでホームランが打てるかよ！イヤミなヤローめ」

その後も連打やバントで市大三高を攻め立てる

『ああーつと!!どうした市大真中投手。ホームランのシヨックか青道打線を止めることができませぬ!この回一挙13失点!!センバツベスト8の市大三高がセンバツ優勝の青道高校に圧倒されています!!』

(原作よりやべえよウチの打線。クリーンナップのクリスくんとか俺抜きの原作メンバーでもこの得点力だもんなあ。マジで敵無しじゃね?コレ)

試合会場では青道が市大三高を圧倒しているのだった

一方で野球部が試合会場に居る青道グラウンドでは高瀬維を越えるべく試合観戦に参加しなかった沢村栄純が高瀬維の希望で導入されたストライクゾーン枠的を使い、1人で投げ込みをしていた

「ふっふっふ!出られない試合にかまけているよりか、コレで打倒維先輩に1歩近づくハズだ!ワハハハ!!」

「ねえ、それ楽しい?相手もないのにそんな楽しそうにやるなんて……キミ、変わってるね」

「!」

「キャッチボールの相手くらいならしてあげてもいいけど?」



「な、なんでここに居るー！」

「トイレ行ってたらバス出ちゃってて……………追いかけるのもめんどくさいし……………ま、ぶつちやけ……………自分が出てない試合なんて興味無いけど……………」

「え？」

「あれ？ここに残ってるってことは……………君もそういうタイプ……………？」

「……………」

場所は再び戻って試合会場

試合はツアアウトランナー1塁市大三高の攻撃

マウンドには背番号10の3年生丹波

「ランナー走ったア!!」

「ボールセカント!!」

セツトポジションからの1球に市大三高をランナーがスタートを切り2塁を狙う

だがキャッチャーの御幸のスローイングによりランナーがスライディングし始めるより早くボールはベースカバーに入ったシヨート倉持のグラブの中

「はい！おつかれさん♡」

シヨートの倉持が果敢に走ったランナーに労いの言葉を掛けつつタッチする

「うおっ……………」

「な、なんつー肩してんだあのキャッチャー！」

「盗塁したランナーにスライディングすらさせなかつたぞ!!」

「青道」

「青道」

「青道」

「スゴイ！ホームベースからまるで白い矢が放たれるみたいに……………」

御幸のスローイングを初めて見たマネージャー達も大興奮だ

「御幸君なら当然よね。寧ろ果敢に走ったランナーを褒めてあげたいわ！」

「くっ、ありえねえ……………完璧なスタートだったのに……………」

御幸の矢のような送球に三校ベンチも動揺を隠せない

「……………やはり立ち塞がるか……………天才御幸一也……………」

（高校野球において一人前の捕手を育てるには2年はかかるもの……………しかし高校生離れしたあの野球センスはまさに天性……………何故ウチに来なかつたあゝ！御幸く！）

市大三高監督田原は御幸が青道に居ることを悔しがりベンチの壁に頭を打ち付けた

再び青道グラウンド

「ワハハハハ！お前！この練習の大切さをわかってないな！」

「大切さ？」

「いいか！コレは日本一のピッチャーが考案して実際にやっていた練習なんだぞ！」

「……………日本一のピッチャー……………」

「お前がどこのポジションかは知らないがピッチャーならやるべきだ！」

青道グラウンドではこの後、沢村栄純は自身の成長を実感させられ尊敬した先輩の素  
晴らしさを広めようと北海道から来た1年生降谷暁に刷り込みに近い布教をするの  
だった

結局試合には22―0で圧勝し青道高校の黄金時代到来を世に知らしめた

## 18話

日曜日、この日監督の片岡は1年生対二軍の試合を計画し選手達に告げていた

「相変わらず日曜日になるとギャラリィがスゲエなOBやら記者やらスカウトやらいろんな人が練習見に来てるぜ」

「やべえ！緊張してきた！」

「俺だって昨日寝れなかったよまさか入部して1ヶ月足らずの俺達が……………上級生相手に試合するなんてな〜」

「よう！1年生諸君！」

「!!？」

「た、高瀬先輩!!」

「今日オフで暇だからコッチの監督やるね〜（主人公の実力も気になるし……………）」

「た、高瀬先輩が指揮を!？」

「ああ、監督って言っても選手交代は片岡監督次第だし、俺がする事と言えば多少のアドバイスくらいだけだ」

「ア、アドバイス……………ですか？」

「まず最初に言つといてあげる。ホントは試合の中で自分で気づくべきなんだろうけどね。この試合君たちは勝てないどころかボロ負けする」

「!!?!」

「ただし、そういう状況の中で各自が自分の出来ることをどれだけ出来るかを監督は見てる。俺がエース外されかねないリスクを背負いながらもこうして君らに話してる理由は今年の3年生が抜けたあとチームは格段に弱くなる。それを憂いているからこそこうしてリスクを背負った。そのことを自覚して死ぬ気でプレーしてくれ」

「!!!!!!はい!!」

「栄純くん。君には期待してるから俺と争う宣言をした投手のピッチングを楽しみに見させてもらうよ。あと小湊くんも期待してるから」

「!!……………うす!!」

「は、はい!! (急に名指し!?)」

試合が始まり、1回表の1年生チームの攻撃

二軍の先発は2年の川島だ

川島は重いフォーシームとツーシーム、緩急のカーブとカウントの取れるシュートを武器に1年生達をいようにあしらい三者凡退の好スタートを切る

1年生チームの先発はシニアで全国ベスト4の実績を持つ東条がマウンドに上がった

しかし所詮中学生と変わらない東条の球は二軍であつても2、3年生達にとつて格好の的でしか無く初回から打ち込まれ初回だけで16失点してしまう

そして2回の攻撃も1人としてランナーを出すことができず川島の力投の前に抑えられてしまう

2回の裏の守備では投手を初め内外野全員を入れ替えるも11点を取られ抑えられない気配がしない

だが、11点目が入ったところで片岡が投手交代を決意、先日ブルペンで1年生捕手が取れない程の豪速球を投じた降谷暁がマウンドに上がった

降谷は前日、二軍選手達に対して御幸に受けてもらう為1人も打たせないと宣言したのだ

降谷の投球練習が終わり、打者が入った瞬間スイッチが入ったように降谷の動きが良

くなる

降谷の投じた1球はキャッチャーのミットに納まらず、片岡の付けていた面を吹き飛ばした

「……………合格だ、降谷。明日から二軍の練習に参加しろ」

当然二軍の選手達は納得がいかず反論するが1年生に降谷の球を取れる捕手がない事と、いい練習相手になることを理由に上級生達を黙らせた

「次の投手！マウンドに上がれ！」

「監督!!」

「!!……………なんだ？高瀬」

「1つお願いがあります」

「……………言ってみろ」

「沢村栄純に登板させて俺に受けさせてください」

「!!？」

「……………一応理由を聞いてやる。言ってみろ。俺を納得させられるだけの理由があるんだらうな？」

「彼は俺が中学の時から育てた投手です。高校入ってから見れてなかった成長を上級生達相手で見たいからです。はつきりいって私利私欲ですが青道のエースがやるだ



けの価値があると思ってます。それに多分コイツの球取れるキャッチャー1年生に居ないですし」

「……………ふふふ……………ふはははは!!お前のエースナンバーをコイツに掛けると言うのか?!いいだろう。やってみろ」

「はー」

高瀬は監督を説得すると笑を抱えて笑っている御幸からミットを借りて防具を付け始める

だが、左投げで通っている高瀬が御幸からミットを借りたのを周囲の人間は不思議に思っていた

実は高瀬は前世で怪我をした後、当時存在したある野球漫画をみて右投げで捕手を目指した時期があったのだ

故に丹波や川上の自主練に付き合う過程で今世でも右投げ左捕りを練習していたのだ

コレは捕手の楽しさに目覚めかけていたのも大きかった

そして1年生チームながら2年生の高瀬がまさかの捕手として出場した

一方の沢村は尊敬する高瀬からの期待値の高さと初めて受けてもらった捕手でもある高瀬を相手に成長を見せられることが何より嬉しかったようで高瀬に恥をかかせな

いようにしつかりと集中できていた

実はこの日まで沢村は高瀬の口添え等により投手が全員やった監督の前での投球練習をさせずにタイヤを使つて走らされていた

全てはこの日に試合でいきなりとびきりのデビューをさせたがった高瀬の策略である

沢村が7球の投球練習を終えたところでノーアウトランナーなし、ワンボールから試合は再開した

沢村―高瀬の変則バッテリーが選んだ初球は右打者のアウトローに突き刺さるフォーシームだった

完璧に制球され、尚且つ沢村のギリギリまで腕が見えない独特のフォームから繰り出された鋭い1球は片岡ですらド肝を抜かれる程のアウトローいっばいのストライクだった

そして予想外の1球に萎縮したバッターをさらにインコース高めのカットボールで威圧するように追い込み、外のチェンジアップで三振を奪った

まさか1年生にこれほどの投球ができるやつが居ないと思っていた上級生達は動揺を隠せず、そこを突くようにフォーシームとチェンジアップの緩急で三者三振に抑えられてしまった

それで勢いに乗った新入生チームは沢村が投手は違うものの原作通り振り逃げで出塁し、代打で出た小湊がライトへの長打を放って2人で1点を奪った

高瀬が打席に立つときさすがに双方の為にならないということに変則的なDH制が取られた為後続が続けずいい流れは一旦止まってしまい、上級生達が勢い付く

だが、それを予期していたかのように次の守備にてムービングボールとフォーシームを混ぜた配球をすることでゴロの山を築き、その後4イニングと上級生チームに出塁を許さない圧巻のピッチング

コレには御幸も驚いておりいつの間にか見に来ていた一軍選手たちも驚愕していた  
その後も流石にヒットは打たれたものの7イニング分1人で完封して見せた事で沢村は降谷を越え、早くも一軍に昇格するのだった

## 19話

沢村が一軍入りを決めた次の日、俺達青道は圧倒で関東大会出場を決め、そのままの勢いで日を跨いだ試合で春季東京都大会を制した

そして関東大会を控えた大会5日前、原作通り沢村とクリスさんがバッテリーを組んでフィールディングを中心とした練習をしていた

俺はピッチングについては教えたがフィールディングについてはボークと牽制の基  
本のみ

投手の立ち回りはどうしても1人ではできないため教えたくても教えられなかったのだ

だが、ここでは人も沢山いて練習に関して言えば誰もが付き合ってくれる環境としては最高だ

---

「新一年生を合わせ総勢93名………なんとも盛観な練習風景ですな。どうですか？片岡監督、今年こそは夏の甲子園に手が届きそうですか？」

「今年は春夏連覇が狙える大切な年ですからねえ」

「……………心配無用。選手達個々の能力は去年の都大会ベスト4のチームを上回りますから」

ケースバッティングでバッターが打ったセンター前の当たりを小湊亮介がダイビングキャッチする

「ハイッ」

飛び込む小湊のフォローに倉持が寄りボールを要求する

飛び込んで体勢が崩れている小湊は左手首だけで倉持にボールをグラブトスすると素手で受け取った倉持がファーストに送球する

「ヒヤッハア!!」

倉持の送球は正確でバッターランナーはアウトになる

「おお〜!!」

「鉄壁の守備を誇る二遊間、1番ショート倉持（2年）、2番セカンド小湊（3年）」  
 「まだ甘いな」

投手が投じた厳しいコースの当たりを当然のように柵越を放つ

「4番でこそ無くなりましたが高校通算ホームラン数はチームトップ、3番キャッチャー滝川（3年）。勝負カンが冴えあの滝川から4番を奪った不動の4番、ファースト、キャプテン結城（3年）」

結城は少量の砂を掴むと胸の前で離し、風の流れを読んでいた

「ふむ……………風は東から西か……………」

（何故風を……………？）

ぶん

と、擬音が目で見えそうな程の力強いスイングをする

「当たればボールは遙か彼方!!レギュラーに復帰した超重量級サード5番増子（3年）」

「うおおお!!死ねオラア!!」

センターから投げられたバックホームはノーバウンドで正確に捕手がタッチしやすいところに投げ込まれた

「強肩強打吼える6番センター伊佐敷（3年）。そしてレギュラーでこそありませんが圧倒的得点圏打率と滝川に勝るとも劣らぬ扇の要、御幸一也（2年）。最後に不動の絶対的

エース、高瀬維。これらの選手は全国にも誇れるメンツだと思っています」  
 「はっはっはっ！では今年こそはと期待して待っておりますぞ！」  
 「では失礼」

関東大会1回戦

青道（東京）—横浜学園（神奈川）

（青道）（002 011 1）（5）（横浜学園）（000 200

4）（6）

「おわっ！青道負けてんじゃん」

「今日クリスと高瀬試合に出てねーんだと」

「なにそれ舐めプ？このまま負けたらぜってえ批判やべえって」

「けど、そもそも今日の相手って打撃がウリの横学だろ？丹波甲子園行つてから全然隙がねえからなア」

「横学打線を褒めるべきか？こりや」

『8回の表——青道高校、投手の交代をお知らせします』

「お？投手交代？高瀬来るか？」

『8番、丹波くんに代わりピッチャー沢村くん。ピッチャー沢村くん』

「沢村栄純!？お、おい！コイツ1年だぞ!？」

「まじかよ！こんな場面で高瀬じゃなくて1年!？」

「青道試合諦めたのか？」

1年生のまさかの登板に球場全体がざわつくが沢村は何処吹く風で意に返さず御幸のミット目掛けてフォーシームを投げ込んでいく

投球練習が終わりバッターがボックスに入る時バッターとキャッチャーの御幸が何か話していたようだが沢村には聞こえておらず、いい感じに集中できていた

そして

(なんだ？コイツ！う、腕が全然見えねえ……………おわっ!?)



いつものダイナミックに足を上げる投球フォームから投じられた1球はインコース胸元に突き刺さる綺麗なフォーシームだった

そのバッターはカットボールで見逃し三振を奪うと勢いに乗った沢村はムービングでファウルを打たしてカウントを稼ぎ、チェンジアップもしくはフォーシームで三振の山を築き、2イニング投げて6三振を記録した

「よくやったー1年にここまでやられたんだ、この試合ひっくり返すぞー!」

「!!!」

そしてその宣言通り4番の結城がホームランで追い付き、延長に入った試合は最後に高瀬がパーフェクトリリーフしたことで青道が逆転勝利した

「何やってる沢村ア!!ちゃんとベースカバーに入らねエか!!」

関東大会で好リリーフを見せた栄純だが今までの野球環境上どうしても連携プレーに慣れておらず、仕組みを1から覚えさせられている

だが、原作と違つてクリス先輩の怪我が深刻では無かつたこともあり、夏大あたりの対応で降谷共々キチツと扱かれている

そして、関東大会を2回戦から丹波くん・栄純・ノリの継投で危なげなく勝ち上がった青道は決勝にて海堂と対戦することになった

先攻 海堂

1番 セカンド

朝村

2番 センター

金井

3番 サード

永瀬

4番 ファースト

千石

5番 レフト

大田

6番 キヤッチャー 杉井

7番 ショート 西

8番 ライト 佐久間

9番 ピッチャー 榎本

後攻 青道

1番 ショート 倉持

2番 セカンド 小湊

3番 ピッチャー 高瀬

4番 レフト 結城

5番 キヤッチャー 滝川

6番 センター 伊佐敷

7番 サード 増子

8番 ファースト 御幸

9番 ライト 白州

今日の相手はMAJORの主人公の一個上の選手達だ

この中には茂野吾郎からホームランを打った千石真人が居るけどマニユアル野球なんてこっちからしてみればホームランバッターを潰してくれるから楽でいい

それを証明する良い機会だ

投球練習が終わり海堂の1番打者が左打席に入る

クリス先輩のサインはアウトローのフォーシーム

俺はサインに頷き、ノーワインドアップで要求通りの場所へ150<sup>キロ</sup>のフォーシームを投げ込む

相手バッターは様子見の指示が出ているようで踏み込みすら甘く、打つ気がないのがバレバレだ

俺は挑発するようにクリス先輩のサインに2度首を振ってインコースにチェンジアップを投げ込み、見逃しで追い込む

3球目はアウトローに決め球のスライダーを投げ込む

相手打者は俺のスタミナ切れ狙いのようでカットしようとするがカスリもせず空振り三振

続く2番バッターはバントしようとするがインハイのフォーシームを上手く転がせず最後はチェンジアップで空振り三振

そして3番バッターも1度もバットに掠らせずスライダー3球で空振り三振を奪った

「むう、ウチの選手達がバットに当てる事すらできんとは……………スライダーは捨てさせるか？」

海堂の現場監督である伊沢は長年このチームの柱となっているマニュアル野球を徹底しているがそもそもバットに当てることができている為頭を悩ませる

「だが、今日の先発は榎本だ。簡単には打たれんだろう」

伊沢は榎本が先発という事で守備については心配していないようだ

榎本の投球練習が終わり、青道の一番倉持が左打席に入る

(この人は確か変化球が多彩で浮き上がるようなストレートを持つてるんだったな………ナックルとか打てる気しねえし見逃せば握力削れるだろ)

倉持は3年生達が撮ってきたデータからナックルを捨てる決断をし、ツーストライクになるまではジャイロボール一本に絞ることにした

そしてそのジャイロボールは榎本が最も自信のあるボールの為初級からアウトローに投げ込んだ

(来た！ストレート！この軌道なら当たる！)

だが、高瀬を相手に打席を重ねた倉持はジャイロボールのノビを読み切りバットを上手く合わせて初球を三遊間へ運んだ

(重！アレで詰まってるのかよ！)

倉持の当たりは三遊間への小フライとなりシヨートの手前で落ちる

シヨートが捕球し素早く送球するが倉持は既にファーストベースを駆け抜けていた

「おおお！倉持出た！」

「小湊、続けよー!」

2番小湊がこれまた左打席に入る

(倉持のやつ……1球しか投げさせてないじゃん。せめて俺が色んな球見とかないと……)

小湊はチーム1の選球眼と結城、滝川に次ぐバットコントロールでストライクゾーンの本本の球をことごとくファールにし13球投げさせてフォアボールを選んだ

そしてノーアウトランナー1、2塁のチャンスに打席には高瀬が入った

(……さて、何狙うかね?俺がアウトコースが得意って事はもうバレまくってるし外のボールデカいの飛ばしてインコース待つか……)

高瀬は狙い通り、アウトコースに来た球をレフトへ特大のファールを打ち、インコースの球を窮屈そうに空振りする

そして3球目のアウトコースのボール球の変化球をレフト線に弾き返した

レフトは素早く捕球するが倉持は既に3塁を蹴っており、小湊も2塁ベースを蹴って3塁に余裕で到達した

(ん〜高さ甘かったから思わず打つちやつたけど、コレで次の打席からインコースばかり来るでしょ)

先制点を取り、尚も1、3塁のチャンスで4番キャプテンの結城が打席に入る

(くっ、まさか榎本の球がここまで打たれるなんて……………しかも4番だ……………ここは歩かせて5番で勝負だ！)

海堂バッテリーはリスクを避けるマニュアル通りに4番を歩かせ、5番のクリスとの勝負を選んだ

しかしクリスは元々、結城が覚醒したかのように打ち出す前は4番だった男だ

結城が高校通算54本に対し、クリスは怪我の間も代打やファーストなどで試合に出場し続け、高校通算61本打っている全国でもそうは居ないスラッガーだ

海堂バッテリーはナツクルを決め球に選択しジャイロボールやカットボールなど、球速の速い球でカウントを稼ぐ、クリスはそれを読み切り、ジャイロボール狙いを思わせるべくカットボールにワザと詰まってファールにした

これを見た海堂バッテリーは三振の確信を持ってナツクルを真ん中から落とす

(ナツクルか……………全国でもナツクルボーラーはそう居ないだろう……………だが、高瀬のスライダーより上と言うことは無い。1度変化し始めればだいたい軌道は読める！)

クリスの出したバットはしっかりとボールの芯を叩き、右中間を割る走者一掃の3点タイムリーツーベースとなる

青道打線はこれでは終わらず、6番伊佐敷がしぶとくライトへのポテンヒット、7番増子のサードを強襲するヒットで再び満塁を作り、打席には得点圏打率7割を越える全



国に名が知れ渡っている名捕手の一人、御幸一也が入る

御幸は未だバッテリーがまだまともにヒットを打たれていない為自信があるジャイロボールを狙い、ライトスタンドへ突き刺した

海堂としては完全なる想定外の一巡せぬ間に一つもアウトが取れず、エースがノックアウトされた

その後は左打者が続くという事で左キラーと呼ばれる桜庭がマウンドに上がり、小湊に四球は出したものの高瀬を抑えて初回を乗り切った

2回表の海堂は4番の千石が先頭打者だが、全球スライダーで空振り三振に打ち取られてしまう

そして2回を全員三振で抑えると、3回も全員三振に切つてとり、4回からピッチャーは沢村に代わった

4回の海堂の攻撃は1番からの好打順

だが大量の点差により沢村はリラックスできており、出処の見えにくいフォームでタイミングを崩しつつムービングとツーシームを中心に打者3人を7球で打ち取った

しかし5回、4番千石に厳しく攻めたツーシームをスタンドに運ばれると、スイートポイントが広い金属バットの特性により打ち取ったハズの当たりがポテンヒットになるなど不運な当たりが続きこの回だけで4失点してしまう

6回からは丹波がマウンドに上がり、大きいカーブと力強いストレートでフライを打たせツーアウトを取るが再び回ってきた4番の千石にまたもやホームランを打たれてしまう

しかし昔と違って持ち堪えた丹波はその後のバッターをカーブで三振に抑えた

そんな丹波に感化された3年生達は結城とクリスに連続ホームランが生まれ、増子も両チーム1の飛距離を計測した特大ホームランで援護した

そして8回まで2失点に抑えた丹波に代わり、9回のマウンドには川上が上がる

海堂は2番から始まる好打順だが先頭打者をスライダーで空振り三振に抑える

しかし、クリーンナップに連打を浴び、1点を失うが丹波のように粘り強いピッチングで後続を抑え、18―6で青道高校が春の関東大会を制した

く番外編・天久編く

関東大会が終わった日、この日は午後が完全なオフだった為、礼ちゃんに外出許可貰って若菜と一緒にカラオケに行く事にした

「———そ、だからあの場面本当はインコース狙ってて……………」  
「あのアウトコース普通はボールだと思っただけ……………」

若菜と今日の試合のことを話しながらカラオケ屋に入店すると若干チャラチャラした高校生くらいの男女5人組が居た

「ん？ ねえ君！」

俺はその中の一人に見覚えがあり、思わず声をかけてしまった

「ん？ 俺？」

「そ！君、君」

俺が声を掛けた金髪くんは周りを見渡して自分を指さした

「何か用？」

「君さ、市大三高の天久光聖じゃない？」

「そうだけど……」

「なんでこんなところに居んの？ 練習は？」

「いや、てかお前誰？」

「俺は高瀬維、青道のエースやってる」

「青道？ 逆にそんなとこのエースがこんなとこでなにやってんの？」

「今日関東大会優勝したから午後はオフなんだよ。それで彼女とデートしに来た」

「へえ〜」

「君さ、チーム逃げ出したんだろ？ 夢中になれなくて」

「!!」

「今から俺が保証してあげるよ。今年の夏の大会は夢中になれる相手ばつかだぜ?」

「その根拠は?」

「真中さんからホームラン打てる1年生にウチでも攻めあぐねる程の精密機械、成宮鳴率いる稲実、そして全国最強の打線と君と同じスライダーが決め球の全国最強のピッチャーが居る青道高校」

「……………おもしれえ!首洗って待ってるよ…………」

「んじゃデート中なんで。また夏大で会おうよ。天久光聖」

「光聖でいいよ高瀬維」

「じゃあ俺も維でいいよ」

「なら維、連絡先交換しねえ?」

「いやよ、君となら有意義に話せるだろうしね」

「じゃあ今度こそまた夏大で会おう。光聖」

「ああ、またな維」

こうして原作と違いチームを離れた天久光聖はスグにチームに舞い戻ることとなった

だがその代償に若菜に拗ねられ、寮生活の高校生にはなかなかキツイプレゼントをす

ることになりました、マル